

○海軍省令第七號

明治十九年六月省令第四十五號海軍服裝規則ヲ改正スル左ノ如ク

海軍一般

明治二十一年六月八日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍服裝規則

- 第一條 凡ソ在職ノ將校以下ハ常ニ制服ヲ着スヘシ
- 第二條 在職ノ准士官以上公務ニ非スレテ外出スル時ハ制服ヲ着セサルモ妨ナレ
- 第三條 各候補生ハ公務ニ非スレテ外出スル時ト雖モ制服ヲ着ス可シ但歸省墓參拜地療養又ハ二十里以外ノ地ニ旅行スル時ハ制服ヲ着セサルモ妨ナレ
- 第四條 艦船ニ服務ノ准士官以上外國港ニ在テハ先任將校ノ許可ヲ得ルニ非レハ公務ニ非スレテ上陸スル時ト雖モ制外ノ服ヲ着スルコトヲ得ス
- 第五條 下士以下ハ内外國ヲ論セス休暇他出ノ時ト雖モ制外ノ服ヲ着スルコトヲ許サス
- 第六條 准士官以上符命及非職ノ輩ハ在職者ニ準シ制服ヲ着ス可シ又退職及罷役ノ輩ハ朝拜若クハ參賀參拜其他儀式祭典ニ於テ制服ヲ着ス可シ又宴會夜會自家ノ賀儀葬祭等通常禮服ヲ着スル場合ニ用フルモ妨ナレ
- 第七條 下士ノ退職者ハ第六條ニ準シ制服ヲ着ス可シ
- 第八條 將校以下刑期中ハ制服ヲ着スルコトヲ許サス
- 第九條 大禮服着用ノ場合ハ概ネ左ノ如ク
 - 一 艦船營内ニ於テ新年ノ敬禮ヲ爲ス時
 - 一 艦船營内ニ於テ紀元節天長節ノ敬禮ヲ爲ス時
 - 一 禮節條例第三條第十二條ノ敬禮ヲ爲ス時

- 一 靖國神社大祭ノ參拜
- 一 勳章授與式施行ノ時
- 一 觀兵式拜觀
- 一 勤務ノ廳へ臨御ノ時
- 一 敎勵御禮ノ爲メ參内スル時
- 一 一般大禮服着用ノ場合
- 一 臨時大禮ニ係ル儀式祭典ノ時
- 第十條 禮服着用ノ場合ハ概ネ左ノ如レ
 - 一 外國ノ軍艦地方長官公使領事ヲ訪問スル時
 - 一 會葬
 - 一 重立タル宴會夜會但夕宴會夜會ニハ大禮務大禮帶短劔
 - 一 拜謁ノ爲メ參内スル時
 - 一 晚餐御陪食大禮帶
 - 一 歳暮ノ参賀
 - 一 御祝詞ノ爲メ參内スル時
 - 一 奉送奉迎ノ時
 - 一 皇族ノ晚餐ニ會スル時但大禮務大禮帶
 - 一 學術卒業證書授與式ニ列スル時
 - 一 進水式ニ列スル時
 - 一 學術卒業證書授與式又ハ進水式ニ臨御ノ節參會スル時

- 一 任官敎位ノ時
- 一 任官敎位御禮ノ爲メ參内スル時
- 一 自家ノ賀儀葬祭
- 一 一般通常禮服燕尾服着用ノ場合
- 一 臨時ノ儀式祭典ニ於テ大禮服ヲ要セサル時
- 第十一條 准士官以上大禮服禮服ヲ着スル時ハ長劔ヲ佩フ可レ但長劔ノ制ナキ者ハ短劔ヲ佩フルモノトス
- 第十二條 禮服ヲ着シ雨雪風波ノ時若クハ宴會夜會ニハ禮帽ニ換フルニ正帽ヲ以テスルコトヲ得
- 第十三條 正服着用ノ場合ハ概ネ左ノ如レ
 - 一 軍法會議ノ開廷
 - 一 内外國ノ文武官員ヲ訪問スル時
 - 一 分隊點檢及人員調査
 - 一 學術大試験及第證書及褒賞授與式
 - 一 學術檢査ノ時
 - 一 午餐御陪食
 - 一 觀花御宴會ニ陪スル時
 - 一 御陪食御宴會等ノ御禮及之ニ齊シキ場合ニテ參内スル時
 - 一 天機伺ノ爲メ參内スル時
 - 一 臨御ノ場所ニ參會スル時
 - 一 皇族ノ午餐ニ會スル時

- 一 政始出陣ノ時
- 一 學術卒業證書授與式等ノ場所ニ參會スル時
- 一 進水式ノ場所ニ參會スル時
- 一 通常ノ宴會夜會
- 一 一般フロックコート着用ノ場合
- 第十四條 正服用ノ場合ハ第十三條ニ掲ケル如シト雖モ第九條第十條ニ掲ケル場合ノ外ハ一般ニ正服用スルモ妨ナシ但戰時出征及非常出兵ノ時ハ此限ニ在ラス
- 第十五條 常服ハ前諸條ニ掲ケル制服着用ノ場合ノ外一般ニ之ヲ用フルモノトス
- 第十六條 凡ソ夏服ハ炎暑ノ際常服用スル場合ニ於テ之ヲ用フルモノトス
- 第十七條 准士官以上ハ六月一日ヨリ九月三十日迄禮服正服用ニ夏袴ヲ用フルヲ一般ノ定規トス下士以下ニ在テモ亦之ニ準ス又正服用ニ夏袴ヲ用フル時ハ夏帽ヲ用フル可シ但御陪食訪問會葬夜間及雨天ノ時其他宮中ノ儀式祭典等ニ列スル時ハ夏袴ヲ用フルノ限ニ在ラス
- 第十八條 夏略帽ハ夏服用スル時夏帽ト併セ用フルモノト雖トモ常服ニ夏袴ヲ用フル時モ亦之ヲ用フルコトヲ得但陸上ニ於テ編隊ノ兵員ヲ指揮スル時ハ夏略帽ヲ用フルコトヲ得ス
- 第十九條 准士官以上正服用或ハ夏服用スル時ハ短劔ヲ佩フルモノトス但士官以上編隊ノ兵員ヲ指揮スル時及短劔ノ制ナキ者ハ長劔ヲ佩フル可シ
- 第二十條 准士官以上ノ劔帶ハ大禮服禮服正服用ニハ其上衣ノ外ニ帶ヒ常服夏服用ニハ其内ニ帶フ可シ但各候補生及樂師ノ正服用ニハ上衣ノ内ニ帶フ可シ
- 第二十一條 准士官以上ノ外套ハ制服ヲ着シ雨雪ノ時及防寒等ノ爲メ之ヲ用フルモノトス
- 第二十二條 准士官以上ノ雨衣ハ制服ヲ着シ雨雪ノ時外套ニ換ヘ用フルモノトス

- 第二十三條 准士官以上制服ヲ着スル時ハ手套ハ白色襟紐ハ黒色ヲ用フル可シ
- 第二十四條 准士官以上制服ヲ着スル時ハ草製ノ短靴ヲ用フル可シ但常服ニ夏袴ヲ用ヒ或ハ夏服用スル時ハ陸上ニ於テ編隊ノ兵員ヲ指揮スル時ノ外ハ白靴ヲ用フルコトヲ得
- 第二十五條 准士官以上正服用或ハ夏服用スル時乘馬若クハ雨雪等ノ際ニハ長靴ヲ用フルコトヲ得
- 第二十六條 乘馬本分ノ將校ハ短靴長靴ノ別ナク常ニ拍車ヲ附著ス可シ
- 第二十七條 飾緒ハ將官ニ在テハ大禮服禮服ノ時ニ限り之ヲ用ヒ佐尉官ニ在テハ總テ制服ニ之ヲ用フルモノトス但事務執行ノ場合ニ際シテハ之ヲ脱スルモ妨ナシ
- 第二十八條 飾緒ハ其上端ヲ右肩ニ掛ケ長條ハ背後ヨリ胸部ニ繞ラシ短條ト共ニ胸部ノ中央ニ繫ケ其下端ヲ垂ル可シ
- 第二十九條 飾緒ハ服制ニ掲ケル如シト雖トモ常服夏服用ノ時ハ絹糸製 陸軍省ハ黃色ノモノヲ使ハ白色ノモノヲ用フルコトヲ得
- 第三十條 下士ニシテ劔ヲ佩フル者其劔帶ノ帶ヒ方ハ准士官以上ニ同シ
- 第三十一條 下士以下ノ外套ハ専ラ防寒ノ爲メ用フルモノトス但軍樂員ノ外套着用ノ場合ハ准士官以上ニ同シ
- 第三十二條 下士以下ノ雨衣ハ雨雪ノ時用フルモノトス
- 第三十三條 服裝ノ定規ハ前諸條ニ掲ケル如シト雖トモ艦船營ニ在テハ先任將校ノ指揮ニ從ヒ裝服スルモノトス但指揮外ノ制服ヲ着セントスル者ハ其許可ヲ得可シ
- 第三十四條 本則中正條ナキ場合及外國交際ニ關シテハ先任將校臨時裝服ヲ定ムルコトヲ得
- 第三十五條 凡ソ軍人制服ヲ着シ勳章及從軍記章ヲ佩用スルニハ左項ニ從フ可シ

- 第一 凡ソ制服ニハ勳章及從軍記章ヲ佩帶ス但正服常服ニハ大授章ヲ掛ク可ラス而レテ場合ニ依リ正服常服ニハ勳章從軍記章ヲ佩帶セサルコトヲ得
- 第二 勳章從軍記章ヲ一列ニ佩帶スル時ハ勳章ヲ内側ニ佩フ可シ而シテ二箇以上ノ從軍記章ヲ佩フル時ハ最初ニ賜リタル記章ヨリ逐次外側ニ及フ可シ

○大藏省令第六號

十錢紙幣交換期限ノ備本月三十日限りノ處尙來ル十二月三十一日迄延期ス依テ右期限内ニ於テ日本銀行本支店又ハ代理店へ交換方申出ヘシ

明治二十一年六月十三日

大藏大臣伯爵松方正義

○海軍省令第八號

海軍兵學校條例左ノ通改正ス

明治二十一年六月二十九日

海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍兵學校條例

- 第一條 海軍兵學校ハ海軍出身志願ノ者ヲ選拔シ生徒ト爲シ海軍將校タルニ必要ノ教育ヲ施ス所トス
- 第二條 本校ノ紀律ハ專ラ艦内ノ例ニ準據ス
- 第三條 志願者ハ年齡滿十六年以上二十年以下ノ者タル可シ
- 第四條 左ニ掲グル者ハ志願スルコトヲ得ス
 - 一 有妻ノ者
 - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

四 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 志願者ハ其願書ニ履歷書及誕辰證書ヲ添ヘ本籍府縣知事寄留者ハ其地ニ差出シ府縣知事ハ願書ニ與書證印シ之ヲ海軍兵學校長ニ送付ス可シ

第六條 志願者其願書ニハ父兄親族其他一家ヲ成ス身元確實ナル者二名ヲ保證人ト爲ス可シ

第七條 入校試驗格例及試驗ノ場所願書履歷書誕辰證書書式ハ生徒召募ノ時兵學校ヨリ豫メ之ヲ告示ス

第八條 生徒召募ノ員數ハ海軍大臣毎年之ヲ定メ兵學校長ハ志願者中ノ及第者ヲ選拔シテ生徒ヲ命ス

第九條 生徒ヲ命セラレタル者ハ誓約書ニ署名捺印シ海軍ニ從事シ決シテ他志ナキヲ表ス可シ

第十條 生徒ハ入校ノ日ヨリ兵籍ニ編入シ修學ノ費用及被服食料等悉皆官費トス

第十一條 生徒ハ分隊ニ編制シ各分隊中二名ヲ選拔シテ其部長部長補トス

第十二條 生徒ノ學期ハ四期即チ四箇年トス而シテ其一期ハ毎年九月十一日ニ始リ翌年九月十日ニ終ルモノトス

第十三條 生徒ノ學科ハ砲術水雷術運用術航海術機關術普通學ノ六科トス

第十四條 生徒在校中受ク可キ學術試驗ハ左ノ三種トス

一 小試驗

二 大試驗

三 卒業試驗

第十五條 生徒試驗ノ及第點ハ各科全點數十分ノ五以上トス

第十六條 大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ與ヘ卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ與フ
 第十七條 前條ニ掲クル證書ハ授與式ヲ行ヒ校長之ヲ授與ス
 第十八條 及第シタル生徒ニシテ左項ノ一ニ該ル者ニハ賞牌ヲ與ヘテ其榮譽ヲ表彰ス
 一 學術優等ノ者
 二 志操特ニ忠實ナル者
 三 品行最モ善良ナル者
 第十九條 賞牌ハ證書授與ノトキ校長之ヲ授與ス
 第二十條 賞牌ヲ有スル生徒ニシテ海軍生徒懲戒則ノ重戒ニ觸ルハ或ハ大試験ニ落第スルカ又ハ其榮譽ヲ汚スコトアルトキハ之ヲ剝奪ス
 第二十一條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス
 第二十二條 生徒ニシテ左項ノ一ニ該ル者ハ退校ヲ命ス
 一 將校タル器量ニ乏キ者
 二 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
 三 學術卒業ニ五箇年餘ヲ要スル者
 四 傷疾疾病等ニ罹リ卒業ノ自途ナキ者
 第二十三條 前條第三項ニ該ル者ニシテ自己ノ不攝生ニ非ラサル長病ニ原因スルカ或ハ賞牌ヲ有スル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトアル可シ
 第二十四條 校長ニ於テ生徒ノ教育ニ關シ詮議ヲ要スル事アルトキハ次長教頭及各教官ヲ會同シ會議ヲ開キ校長議長トナリ審議決定ス可シ但時宜ニ依リ軍醫長ヲ列セシムルコトアル可シ
 第二十五條 校長ニ於テ第二十二條ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルト認ムル者アルトキハ之ヲ海軍大臣

ニ具申ス可シ但第一第二第三項ニ該ル者ハ會議ヲ開キ審議ノ上具申ス可シ
 第二十六條 校長ハ毎學期及全學期ノ終ニ於テ會議ヲ開キ各生徒ノ學術志操品行等ノ實況ヲ審議シ其優劣ヲ議決シ席次ヲ定ム
 第二十七條 校長ハ大試験卒業試験ノ成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ
 第二十八條 校長ハ毎學期教育ニ關スル要件ヲ詳記シ之ヲ海軍大臣ニ報告ス可シ
 第二十九條 次長ハ教育ノ事ヲ監督シ軍紀風紀ヲ維持ス
 第三十條 次長ハ艦長同一ノ職務ヲ執行スルモノトス
 第三十一條 次長ハ諸般ノ報告ヲ受領シ又校長ヨリ委任ノ事件ハ處分シテ然ル後其狀況ヲ校長ニ具申ス可シ
 第三十二條 副官ハ校長ノ處分ニ係ル秘密文書ノ授受官印ノ監守ヲ掌ル
 第三十三條 教頭ハ次長ノ指揮ヲ受ケ學術教授及試験並ニ編纂翻譯ノ事ヲ管理ス
 第三十四條 教頭ハ學術教授上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ次長ニ申告ス可シ
 第三十五條 教頭ハ各教官ヨリ出ス所ノ試験成績表ニ意見ヲ附シ次長ニ出ス可シ
 第三十六條 教官ハ教頭ノ指揮ヲ受ケ各擔任ノ學術教授ヲ掌リ試験ヲ行フトキハ其成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ教頭ニ出ス可シ
 第三十七條 教官ハ教場ニ在テハ生徒ヲ守テ紀律ヲ守ラシメ容儀ヲ保タシムルコトニ注意ス可シ
 第三十八條 生徒隊司令官ハ次長ノ指揮ヲ受ケ専ラ生徒ノ德育體育ニ注意シ其容儀品行ヲ監視シ每學期ノ終ニ考科表ヲ製シテ次長ニ出ス可シ
 第三十九條 生徒隊司令官ハ艦船副長同一ノ職務ヲ執行スルモノトス
 第四十條 生徒隊副官ハ生徒隊司令官ニ屬シ校内ノ整頓及紀律警察等ノ事ヲ補助シ且下士以下ノ

分隊長ノ職ヲ執ルモノトス

第四十一條 生徒分隊長ハ生徒隊司令官ノ指揮ヲ受ケ部下生徒ヲシテ軍紀風紀ヲ保タシメ軍人ノ志操ヲ養成スルコトニ注意シ生徒ノ品行及其身上ニ就テハ日常瑣末ノ事ト雖モ之ヲ監視ス可シ而シテ毎學期ノ終ニ部下生徒ノ考科表ヲ製シ生徒隊司令官ニ出ス可シ

第四十二條 生徒分隊長ハ交番ニ校內當直ニ從事ス可シ

第四十三條 生徒分隊長及主計官等若干人ヲ以テ被服糧食委員ト爲シ生徒ノ被服糧食ノ調査ニ關スル事ヲ掌ラシム

第四十四條 本校ニ助教トシテ上等兵曹機關師兵曹機關手ヲ置キ教官ノ指揮ヲ受ケ授業ニ從事セシム

第四十五條 本校ニ船匠師兵曹警吏機關手船匠手鍛冶手看護手筆記主厨及水兵信號水兵火夫木工鍛冶看病夫厨夫ヲ置キ各其主務ニ從事セシメ又屬員ヲ置キ編纂翻譯印刷其他校長ノ命スル事務ニ服セシム

○海軍省令第九號

明治十九年七月省令第六十八號海軍軍樂員條例第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十一年七月三日

海軍大臣伯耆西郷從道

軍樂師軍樂手ノ中十二名以内ヲ以テ軍樂教授トシ軍樂手軍樂生及軍樂生志願者ヲ教導セシム

○文部省令第四號

明治十九年七月文部省令第十六號高等中學校ノ學科及其程度中改正追加スルコト左ノ如シ

明治二十一年七月六日

文部大臣子爵森 有禮

第一條中理財學ノ次ニ法學通論ノ四字ヲ加フ

第四條ヲ左ノ如ク改正ス

第四條 高等中學校ノ學科ハ一部二部三部ニ分チ各生徒ヲシテ其一ヲ修メシム各學科每週授業ノ時數凡左ノ如シ

國語及漢文	第一學部			第二學部		
	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	三	三		四	四	
第二外國語				四	四	四
羅馬語				二	四	六
地理	二	二			二	
歷史	三	三				

○外務省令第一號
 明治十九年七月省令第一號交際官並領事費用條例細則甲丙兩號表中左ノ通改正増補ス
 明治二十一年七月十三日
 外務大臣伯爵大隈重信
 甲號

外國行航費定額表中追加改正 但船客料荷物運賃船中諸費共

從東京至浦潮港	一等一人分	銀貨百〇四圓	二等一人分	銀貨五拾七圓
從香港至廣東	同	同 八圓五拾錢	同	同 四圓
從上海至福州	同	同 三拾六圓	同	同 拾七圓貳拾五錢
從香港至「イニラ」項改正				
從香港至マニラ		佛貨六百九拾佛		佛貨五百貳拾九佛
同陸路旅費定額表中追加 但汽車運荷物運賃等一人分ノ算計ナリ				
從フリンジダー至ミニニク	上等	銀貨五拾五圓	中等	銀貨四拾圓
從ミニニク至コロギニ	同	同 貳拾圓	同	同 拾四圓
從コロギニ至ブレイメン	同	同 拾八圓	同	同 拾三圓
從伯林至ブレイメン	同	同 拾貳圓	同	同 八圓
從ブレイメン至ブレイメンハーフエン	同	同 壹圓三拾錢	同	同 壹圓四拾錢

丙號

公使領事以下移轉諸費表中追加 但印ハ妻携帶費ヲ合ス 但銀貨ヲ以テ給ス

總領事	リパブル	伯林	新	廣
一等	百九拾六圓	百九拾六圓	百〇九圓	九拾五圓
二等	百八拾四圓	百八拾四圓	百三拾七圓	百貳拾三圓
三等	百七拾四圓	百七拾七圓	百〇貳圓	八拾八圓
領事	百七拾四圓	百六拾七圓	百三拾圓	八拾六圓
一等	百七拾四圓	百六拾五圓	九拾五圓	八拾貳圓
二等	百六拾九圓	百五拾五圓	百貳拾三圓	百拾圓
三等	百五拾九圓	百五拾貳圓	八拾八圓	七拾六圓
副領事	百拾圓	百〇五圓	五拾三圓	五拾三圓
領事代理	百〇五圓	百圓	四拾七圓	四拾七圓
書記	百五拾圓	百四拾四圓	八拾壹圓	六拾九圓
生	百〇五圓	百圓	四拾七圓	四拾七圓
一等	九拾貳圓	八拾七圓	三拾六圓	三拾六圓
二等	八拾三圓	七拾七圓	三拾壹圓	三拾壹圓
三等	七拾貳圓	六拾八圓	貳拾五圓	貳拾五圓
四等	六拾貳圓	五拾七圓	拾九圓	拾九圓
五等	六拾圓	五拾五圓	拾八圓	拾八圓
六等	五拾七圓	五拾三圓	拾七圓	拾七圓
七等	五拾五圓	五拾圓	拾五圓	拾五圓
八等	五拾三圓	五拾圓	拾四圓	拾四圓
八等	五拾五圓	五拾圓	拾五圓	拾五圓

同	五拾三圓	四拾七圓	拾四圓
同	五拾圓	四拾五圓	拾三圓
同	五拾圓	四拾五圓	拾三圓

○陸軍省令第十五號

陸軍豫備役後備軍艦員兵員並歸休兵召集旅費支給概則左ノ通定ム

明治二十一年七月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第一條 豫備役後備軍艦員將校ニ在リテハ旅中諸費トシテ一日陸路十里詰ノ割ヲ以テ日當金壹圓五拾錢ヲ支給ス但近方三里未滿ハ之ヲ給セス三里以上六里未滿ハ日當ノ半額六里以上ハ全額ヲ給ス又十里以上ノ端里數一里未滿ハ給セス一里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス

第二條 歸休兵並豫備役後備軍艦員下士及兵員ニ在リテハ旅中諸費トシテ一日陸路十里詰ノ割ヲ以テ日當金四拾錢ヲ支給ス但近方及端里數ノ給與方ハ前條ニ同シ

第三條 召集地到着ノ際官ノ都合ニ依リ各自ニ宿泊セシムルトキハ其到着翌日ヨリ宿泊ノ數ニ應シ艦員將校ハ滞在日當金五拾錢艦員下士及兵員ハ日當金貳拾八錢ヲ支給ス但近方三里未滿ノ者及三里以上六里未滿ノ者並十里以上端里數六里未滿ノ者ニ限リ到着當日ハ艦員兵員共旅中日當ノ半額ヲ給ス又下士以下ニシテ翌日午後ニ至リ入營セシムルトキハ晝食料トシテ金八錢ヲ支給ス

第四條 旅中川留雪支ノ爲メ他道ヲ迂回シ若シクハ滞在シ又ハ病氣船待等ノ爲メ滞在シタルトキハ其事由ヲ詳具セシメ其判然タルモノハ右迂路ニ係ル延仲里程ヲ通算シテ日當ヲ給シ或ハ宿泊ノ數ニ應シテ滞在日當ヲ支給ス但下士以下ニ在リテハ郡區長若クハ戶長ノ證明書病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス

第五條 陸路計算法ハ概ネ郵便線路圖ニ依リ算出スルモノトス但島嶼居住ノ者船賃ハ時宜ニ依リ實費支給スルコトアルヘシ

第六條 此概則ハ明治二十一年十一月十日ヨリ施行シ同日ヨリ明治二十年送甲第三十二號陸軍省達ハ廢止ス

○陸軍省令第十六號

明治二十二年四月滿期トナルヘキ近衛現役兵ハ來ル十一月二十五日ニ各師團現役兵ハ九月三十日兵工隊中電信通信新修業ノニ歸休セシム

伯騎兵糧重兵看護卒ハ渾テ十一月三十日ニ歸休セシム

明治二十一年七月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令第十七號

本年徵集ノ現役輜重輸卒ハ左表ノ通入營セシム

但郷里ニ於テ服役スル者ノ取扱方ハ客年陸軍省令第十一號ヲ適用ス

明治二十一年七月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

師	入營期	二十一年	二十二年	八月	二十二年
第 一		百二十八	同上		同上
第 二		六十八	同上		同上
第 三		六十八	同上		同上
第 四		百二十八	同上		同上
第 五		九十八	同上		同上

第	六	九十八	同上	同上
---	---	-----	----	----

本表人員ノ外ハ入管ヲ命セシ郷里ニ於テ服役セシム

○海軍省令第十號

海軍下士卒家族扶助金給與規則左ノ通改定ス

明治二十一年七月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍下士卒家族扶助金給與規則

- 第一條 志願ニ依リ出身シタル下士卒現役中ハ扶助金トシテ其家族へ一箇年ニ金拾圓ヲ給與ス但單身戸主タル下士卒ノ附籍者及單身戸主タル下士卒ヲ附籍セシメタル者ニハ給與セス
- 第二條 現役兵員ニ編入又ハ退職退役或ハ免官免役死亡其他現役一箇年ニ滿タサル時及第三條第四條第五條ノ場合ニハ總テ月割ヲ以テ給與ス
- 第三條 海軍刑法第百十九條第百二十條第百二十三條第百二十四條第百三十五條ノ罪ヲ犯シタル者其不在中ハ給與ヲ停止ス
- 第四條 單身ノ下士卒家族ヲ有シタル時ハ其家族入籍ノ月ヨリ給與ス但入籍後三十日ヲ過キ地方廳へ届出タル者ハ該廳ヨリ報告ノ月ヨリ給與ス
- 第五條 養子又ハ復籍等ノ事故ニ依リ甲乙兩家ニ跨ル時ハ其當月分ハ甲ノ家族ニ給與ス
- 第六條 扶助金額ハ曆年ニ依リ前後二期ニ分テ前半年分ハ其年八月ニ後半年分ハ翌年二月ニ該地方廳ニ於テ下附ス但前半年分ハ給與期月ニ當ル會計年度ノ經費ヨリ支出スルモノトス
- 第七條 地方廳ニ於テ扶助金下附ノ際家族失踪等ノ事故ニ依リ六箇月以上受領者ナキ時ハ其金額ノ給與ヲ停止ス

第八條 甲地方ヨリ乙地方ニ移住スルモ六月一日ヨリ前半年分下附ノ日マテ及十二月一日ヨリ後半分下附ノ日マテハ乙地方廳へ金額下附ノ出願ヲ許サス各一期分ハ甲地方廳ニ於テ下附スルモノトス

第九條 明治十七年九月六日以前ヨリ現役ニ服スル者及志願兵徵募規則ニ依リ同日以前ニ徵募シタル者ニハ一箇月金壹圓七拾五錢ヲ給與ス其支給法ハ前各條ノ例ニ依ル但其後ニ家族ヲ有シタル者ニハ其當月ヨリ又再役シタル者ニハ其翌月ヨリ第一條ノ金額ヲ給與ス

○大藏省令第八號

本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻稅規則施行細則左ノ通相定ム

明治二十一年八月三日

大藏大臣 伯耆松方正義

輸出酒類戻稅規則施行細則

- 第一條 酒類ヲ外國へ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名等ヲ記載シタル書面ヲ輸出港稅關ニ差出シ現品ノ検査ヲ請ヒ検査済ノ證明書ヲ受クヘシ
- 第二條 酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ該港ノ陸揚免狀及輸出港稅關ノ證明書ニ必ズ在留本邦領事ノ檢印ヲ受ケ當初輸出ノ稅關ニ申出テ造石稅金ノ下戻ヲ請フヘシ
- 第三條 外國ニ輸出シ造石稅下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數ト當初稅金ノ下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港稅關ニ差出シ現品ノ検査ヲ受ケ造石稅金ヲ還納スヘシ
- 第四條 造石稅金下戻及還納ノ際石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ヘシ

○大藏省令第九號

本年六月勅令第四十七號醬油稅則施行細則左ノ通相定ム

明治二十一年八月三日

大藏大臣 伯耆松方正義

醬油稅則施行細則

- 第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ検査済ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第十一條 改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日内ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一 代替書替ハ

六十日間

一 其他ノ書替再渡ハ

十日間

第十二條 製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受ケ二十日以内之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢棄石數等ヲ詳記シ所管租稅檢査員派出所ニ申出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 造石數査定未濟ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第十六條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ
醬油製造原品買入帳
醬油製造帳
醬油仕込帳
醬油賣揚帳

第十七條 稅則及此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名名稱石數箇數輸入地名積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受クヘシ

第十九條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ稅關ニ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油造石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名石數箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十二條 稅則及此細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 此細則ニ關スル帖簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

○内務省令第四號

第一條 市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼結了ノ日ニ至ル迄ハ區長戶長區書記役場筆生等ニ於テ從前ノ通事務取扱ヲ爲スヘシ

第二條 前條事務取扱中地方稅支辨ニ係ル吏員ノ給料旅費並ニ區役所戶長役場ノ經費ハ總テ該年

度ノ豫算ニ據リ地方税又ハ町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 市制及町村制施行ノ期日ヲ定メタルトキ前條ノ地方税又ハ町村費ニ關シ未タ該年度ノ豫算ヲ議定セス又ハ議定シタル豫算ノ不足アルニ於テハ從前ノ道府縣知事戸長ニ於テ府縣會町村會ノ議決ヲ取リ前條費目必要ノ豫算ヲ定ムヘシ

第四條 市制及町村制施行ノ日ヨリ市町村税徵收ニ至ルマテ市町村必要ノ費用ハ第二條ノ費用ヲ除クノ外區長戸長ニ於テ其豫算ヲ設ケ區町村會ノ議決ヲ經テ假徵收ヲナスヘシ但新市町村ト舊區町村會區域ト符合セサル場合ニ於テハ各區町村會ニ於テ區々ノ豫算ヲ設ケサル爲メ府縣知事ニ於テ其標準ヲ示スコトヲ得

前項ノ費用ハ區町村會ノ議決ニ依リ現在セル區町村費又ハ共有金ヲ一時使用シ又ハ一時ノ借入金ヲ以テ其費用ニ充ツルコトヲ得

第五條 區長戸長ニ於テ取扱タル一切ノ金穀並會計帳簿ハ其金穀ノ種類及ヒ所屬年度ヲ區別シタル明細書ヲ製シ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ第四條ノ金額ハ事務引繼前ニ支拂タルモノヲ除クノ外人口段別ヲ標準トシテ適宜各部分ニ配付シ其他ハ人口段別ノ最多キ部分ノ分屬シタル市町村長ヲ以テ主擔トシ其市町村長ニ引繼キ主擔市町村長ハ第七條但書ヲ精算ヲ了シタル上其所屬外ノ部分ノ分屬シタル各市町村ニ屬スヘキモノハ更ニ之ヲ其市町村長ニ引繼クヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ帳簿ノ類ニシテ分割スヘカラサルモノアルトキハ更ニ引繼クコトヲ要セス但閱覽ノ便ヲ妨クヘカラス

第六條 第四條第一項ニ依リ假徵收ヲナシタルモノハ追テ市町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上市町村税各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲ス可シ

同條第二項ニ依リタルトキハ新ニ徵收シタル市町村税ヲ以テ返償ヲ爲スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ最初配付ヲ受ケタル割合ニ應シ各市町村長ニ於テ之ヲ徵收シ主擔市町村長ニ於テ全額ヲ取纏メテ其返償處分ヲ爲スヘシ

第七條 區長戸長ニ於テ未タ精算ヲ了セサル區町村費ハ其引繼ヲ受ケタル市町村長ニ於テ之ヲ精算ヲ作リ市町村會ニ報告スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主擔市町村長ニ於テ精算ヲ作リ主擔市町村長ハ其市町村會ニ報告シ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ニ於テハ主擔市町村長ヨリ之ヲ其各市町村長ニ送付シテ其市町村會ニ報告セシムヘシ

第八條 前條精算ノ場合ニ於テ殘餘金アルトキハ市町村長ニ於テ舊區町村ニ割戻ヲナス可シ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ主擔市町村長ニ於テ割戻ノ高ヲ定メ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ配付シ各其割戻ヲナスヘシ

第九條 第七條精算ノ場合ニ於テ不足金ヲ生シタルトキハ市町村會ノ決議ヲ經テ舊區町村ヨリ追徵補充スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主擔市町村長ニ於テ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ其補充豫算ヲ作リ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ送付シ各市町村會ノ決議ヲ經テ其舊區町村ノ部分ヨリ追徵補充スヘシ

第十條 不納ニ關シタル區町村費ニシテ精算報告後ニ於テ追徵シタルモノハ各市町村ノ臨時收入トナスヘシ

第十一條 從前郡部ト經濟ヲ異ニセサル區若クハ郡部内ノ市街地ニ市制ヲ施行スルトキハ該市ハ地方税費目中郡區廳舍建築修繕費並郡吏員給料旅費及廳中諸費ノ負擔ニ任スヘカラサルヲ以テ該費ハ市制施行ノ後ハ市ニ賦課セサルモノトス但第二條ノ諸費ニ係ルモノハ此限ニアラス

本年四月當省令第三號煙草稅則施行細則第三條煙草製造ノ下又ハ煙草仲買ノ六字ヲ加フ
明治二十一年九月二十六日 大藏大臣伯爵松方正義

○内務省令第七號

鹽酸古加乙涅安知歌貌林ノ二藥品質性狀及ヒ試驗法等左ノ通相定ム自今該二藥ハ日本藥局方所藏
ノモノト同様取扱ヘシ

但鹽酸古加乙涅ハ同藥局方第三表所載ノ藥品ニ同シ

明治二十一年九月二十九日

内務大臣伯爵山縣有朋

鹽酸古加乙涅

Cocaini Hydrochloras

鹽酸古加乙涅ハ白色無臭ノ小葉狀或ハ稜柱狀結晶或ハ結晶性ノ粉末ニシテ弱酸性ノ反應ヲ微シ其
味少シク苦ク舌上ニ鈍麻ノ感覺ヲ起シ大約〇五分ノ水及二分ノ酒精ニ溶解ス白金板上ニ熱スレハ
固性物ヲ遺サスシテ燃化スヘシ

本品ニ少量ノ硫酸ヲ加フレハ泡沸シテ無色ニ溶解スヘシ其溶液ヲ重湯煎上ニ温ムルコト大約十分
時間ノ後少量ノ水ヲ加ヘテ放冷スレハ夥シク安息香酸ノ結晶ヲ折出スヘシ

本品ノ水溶液(1:20)ハ硝酸銀ニ由テ稀硝酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス然レトモ硝酸拔價誤
ニ由テ蛋白石濁ヲ生スルニ過クヘカラス

本品ノ水溶液ニ加里瀉液ヲ加フレハ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス然レトモ其際安母尼亞性ノ臭氣ヲ發
スヘカラス

注意シテ貯フヘシ

(極量) 一日ノ極量〇・四瓦蘭謨一回ノ極量〇・一瓦蘭謨

安知歌貌林

Anifebrinum

安知歌貌林ハ光輝アル無色無臭ノ葉狀結晶ニシテ中性ノ反應ヲ微シ味僅ニ辛辣ナリ百十三度ノ熱
ニ於テ熔融シ大約二百分ノ冷水十八分ノ熱湯及三・五分ノ酒精ニ溶解ス白金板上ニ熱スレハ固性
物ヲ遺サスシテ燃化スヘシ

本品〇・一瓦蘭謨ヲ稀硫酸二立方センチメートルト共ニ二三分時間煮沸シタル後更ニ酒精二三滴
ヲ加ヘテ温ムレハ醋酸依的兒ノ香氣ヲ發ス之ニ那篤倫瀉液ヲ加ヘテ亞爾加里性トナシ且ツ多量ノ
水ヲ以テ稀釋シタル冷溶液ニ格魯兒那篤倫溶液一二滴ヲ加フレハ紫堇色ヲ呈ス

○陸軍省令第十九號

明治二十年第一次徵集ノ現役兵中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ徵兵令第十二條ニ據リ步兵騎兵工兵ハ一中隊四名砲兵ハ一中隊三名輜重兵ハ一中隊二名ノ割ヲ以テ本年新兵入營前ニ歸休セシム

○陸軍省令第二十號

本年新兵入營ノ上各隊定員上過剩トナルヘキ人員ヲ豫算シ明治十九年以前徵集ノ現役兵七月一日以後滿期トナルヲ各聯隊分屯大隊並ニ聯隊ヲ毎ニ府縣近衛ハニ平均シ籤番號ノ低キ者ヨリ右新兵入營前ニ歸休セシム
但明治十九年以前徵集ノ現役兵ヲ歸休セシメタル上尙ホ過剩トナルトキハ明治二十年第一次徵集ノ現役兵當ル者及ヒ上等兵喇叭卒ヲ除クヲ本文ノ手續ニ依リ歸休セシム

○文部省令第五號

明治十九年五月文部省令第九號尋常師範學校ノ學科及其程度第二條教育ノ項中管理ノ方法ノ下ニ教育ニ關スル本邦法令ノ十字ヲ加フ

○內務省令第八號

明治十九年九月內務省令第十七號內務報告例廢止ス
明治二十一年十月九日
內務大臣伯爵山縣有朋

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍大臣伯爵大山 巖

文部大臣子爵森 有禮

應府縣 憲兵本部
集治監 假留監

裁			
八日市場		勝浦	
左	荒野	勝浦	大多喜
下總香取郡	下總海上郡	上總夷隅郡	上總武蔵郡
香取村 長山村 本矢作村 藤田村 多田村 新市場村 九美上村 下小野村 返田村 新部村 茶塚村 伊地山村 吉原村 津宮村 八日市場村 野田村 一ノ分目村 三ノ分目村 清里村 上小畑村 堀田村 小見川村 木内村 八木村 山川村 田部村 仁良村 神生村 米之井村 小見村 下小川村 中沼村 南原地新田 新々田村 羽根川村 竹ノ内村 川上村 高野村 五郷内村 下飯田村 阿玉村 貝塚村 川原村 北原地新田 岡飯田村 長岡村 古内村 清和村 入野村 米込村 櫻井村 南郷ノ内村 志高村 萬壽村 關戸村 高部村 青野村 大久保村 櫻井村 船戸村 東和村 須賀山村 新宿村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 須賀山村 新宿村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 宮本村 石山村 東今泉村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 附洲新田 鎌木村 宮原村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 秋田村 山倉村 新里村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 佐原出張所管轄ノ除外ノ外一圓 小見川出張所管轄ノ除外ノ外一圓 柴山村 小池村 山中村 谷塚村 殿部田村 高谷村 大塚村 新井田村 岩山村 境村 宮崎村 大里村 上吹入村 山田村 高谷村 朝倉村 岩山村 飯櫃村 小原子村 大里村 上吹入村 山田村 高谷村 朝倉村 岩山村	金江津村 片巻村 下加納新田 十三間月村 平川村 滑川村 四大須賀村 大倉村 高倉村 猿山村 名古屋村 成井村 七澤村 名木村 中里村 高村 倉水村 野馬込村 小野村 大和田村 高岡村 地蔵原新田 神崎神宿 松崎村 今村 高谷村 武田村 神崎水宿 小松村 前木村 植房村 立野村 大賀村 堀ノ内村 谷中村 寺内村 古原村 曲淵村 西坂村 西坂村 上須田村 阿波崎新田 結佐村 下須田新田 四ツ谷村 余津谷村 清久島村 橋向村 石納村 野馬谷原村 川尻村 八筋川村 大島村 坂島村 西代村 森島村 新寺村 官洲新田 長山村 中洲村 八筋川村 大島村 坂島村 西代村 森島村 新寺村 官洲新田 長山村 中洲村 佐原町 大戸村 大戸川村 大戸川村 大戸川村 大戸川村 大戸川村 大戸川村 所村 久井崎村 櫻田村 上小川村 關村 片野村 伊能村 堀崎村 柴田村 松子村 奈土村 新田村 前林村 津富浦村 大根村 中野村 横山村 船山村 大崎村	面白村 小田代村 葛藤村 市川村 伊保田村 田代村 三條村 弓木村 堀切村 板谷村 市川村 紙敷村 小苗村 湯倉村 馬場内村 原内村 彌豆用村 堀ノ内村 松尾村 上原村 四田村 大多喜大多喜村 大多喜御原町 大多喜新田 石上村 石上村 四田村 横山村 小又井村 大多喜御原町 大多喜御原町 大多喜御原町 大多喜御原町 須賀谷村 今關村 船子村 能宮村 正立寺村 下原村 細尾村 八乙女村 増田村 船子村 能宮村 正立寺村 下原村 細尾村 引田村 行川村 高谷村 佐室村 澤部村 長志村 細尾村 新田野村 山田村 高谷村 佐室村 澤部村 長志村 細尾村 大多喜出張所管轄ノ除外ノ外一圓 一宮本郷出張所管轄ノ除外ノ外一圓	木更村 香妻村 貝淵村 櫻井村 晴四村 大田村 相里村 砥岡村 長須賀村 永井作村 菅生村 中尾村 大成村 樽村 高柳村 中里村 江川村 萬石村 坂戸市場村 中島村 中島村 瓜倉村 牛込村 中野村 奈真輪村 坂戸市場村 中島村 中島村 代宿村 井尻村 有吉村 會根村 牛盛野 牛盛野 牛盛野 牛盛野 大寺村 飯高村 下新田村 三ツ作村 野田村 神納村 十日市場村 大倉根村 勝村 岩井村 下泉村 永地村 上泉村 林村

判			
小見川		多古	
東	田	多古	小見川
上總山邊郡	上總武蔵郡	下總香取郡	下總香取郡
多古出張所管轄ノ除外ノ外一圓 木更村 香妻村 貝淵村 櫻井村 晴四村 大田村 相里村 砥岡村 長須賀村 永井作村 菅生村 中尾村 大成村 樽村 高柳村 中里村 江川村 萬石村 坂戸市場村 中島村 中島村 瓜倉村 牛込村 中野村 奈真輪村 坂戸市場村 中島村 中島村 代宿村 井尻村 有吉村 會根村 牛盛野 牛盛野 牛盛野 牛盛野 大寺村 飯高村 下新田村 三ツ作村 野田村 神納村 十日市場村 大倉根村 勝村 岩井村 下泉村 永地村 上泉村 林村	飯櫃村 小原子村 大里村 上吹入村 山田村 高谷村 朝倉村 岩山村 境村 宮崎村 大里村 上吹入村 山田村 高谷村 朝倉村 岩山村 柴山村 小池村 山中村 谷塚村 殿部田村 高谷村 大塚村 新井田村 岩山村 佐原出張所管轄ノ除外ノ外一圓 小見川出張所管轄ノ除外ノ外一圓	下總香取郡 香取村 長山村 本矢作村 藤田村 多田村 新市場村 九美上村 下小野村 返田村 新部村 茶塚村 伊地山村 吉原村 津宮村 八日市場村 野田村 一ノ分目村 三ノ分目村 清里村 上小畑村 堀田村 小見川村 木内村 八木村 山川村 田部村 仁良村 神生村 米之井村 小見村 下小川村 中沼村 南原地新田 新々田村 羽根川村 竹ノ内村 川上村 高野村 五郷内村 下飯田村 阿玉村 貝塚村 川原村 北原地新田 岡飯田村 長岡村 古内村 清和村 入野村 米込村 櫻井村 南郷ノ内村 志高村 萬壽村 關戸村 高部村 青野村 大久保村 櫻井村 船戸村 東和村 須賀山村 新宿村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 須賀山村 新宿村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 宮本村 石山村 東今泉村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 附洲新田 鎌木村 宮原村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 秋田村 山倉村 新里村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 佐原出張所管轄ノ除外ノ外一圓 小見川出張所管轄ノ除外ノ外一圓 柴山村 小池村 山中村 谷塚村 殿部田村 高谷村 大塚村 新井田村 岩山村 境村 宮崎村 大里村 上吹入村 山田村 高谷村 朝倉村 岩山村 飯櫃村 小原子村 大里村 上吹入村 山田村 高谷村 朝倉村 岩山村	下總香取郡 香取村 長山村 本矢作村 藤田村 多田村 新市場村 九美上村 下小野村 返田村 新部村 茶塚村 伊地山村 吉原村 津宮村 八日市場村 野田村 一ノ分目村 三ノ分目村 清里村 上小畑村 堀田村 小見川村 木内村 八木村 山川村 田部村 仁良村 神生村 米之井村 小見村 下小川村 中沼村 南原地新田 新々田村 羽根川村 竹ノ内村 川上村 高野村 五郷内村 下飯田村 阿玉村 貝塚村 川原村 北原地新田 岡飯田村 長岡村 古内村 清和村 入野村 米込村 櫻井村 南郷ノ内村 志高村 萬壽村 關戸村 高部村 青野村 大久保村 櫻井村 船戸村 東和村 須賀山村 新宿村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 須賀山村 新宿村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 宮本村 石山村 東今泉村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 附洲新田 鎌木村 宮原村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 秋田村 山倉村 新里村 高部村 青野村 小具野村 谷津村 平山村 羽野村 佐原出張所管轄ノ除外ノ外一圓 小見川出張所管轄ノ除外ノ外一圓 柴山村 小池村 山中村 谷塚村 殿部田村 高谷村 大塚村 新井田村 岩山村 境村 宮崎村 大里村 上吹入村 山田村 高谷村 朝倉村 岩山村 飯櫃村 小原子村 大里村 上吹入村 山田村 高谷村 朝倉村 岩山村

所										
川津縣										
大和內吉野郡										
折立村	桑畑村	道西川村	今西村	湯之原村	川津村	高津村	上野地村	中野村	丹沼村	千原村
山手谷村	七色村	上湯川村	大谷村	内野村	内野村	五百園村	長殿村	北野村	吉野山	立野村
上葛川村	那知合村	平谷村	永井村	大野村	内野村	内野村	沼田原村	沼田原村	河原屋村	志賀村
東中村	谷垣内村	山手村	四手村	小森村	山天村	山天村	三浦村	北大田村	北大田村	志賀村
神下村	玉窪川村	山崎村	小原村	山崎村	山崎村	山崎村	谷園村	新野村	新野村	峰寺村
竹筒村	小川村	小原村	玉垣内村	池穴村	池穴村	池穴村	宇宮原村	馬佐村	津風呂村	津風呂村
	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村

所										
川津縣										
大和內吉野郡										
折立村	桑畑村	道西川村	今西村	湯之原村	川津村	高津村	上野地村	中野村	丹沼村	千原村
山手谷村	七色村	上湯川村	大谷村	内野村	内野村	五百園村	長殿村	北野村	吉野山	立野村
上葛川村	那知合村	平谷村	永井村	大野村	内野村	内野村	沼田原村	沼田原村	河原屋村	志賀村
東中村	谷垣内村	山手村	四手村	小森村	山天村	山天村	三浦村	北大田村	北大田村	志賀村
神下村	玉窪川村	山崎村	小原村	山崎村	山崎村	山崎村	谷園村	新野村	新野村	峰寺村
竹筒村	小川村	小原村	玉垣内村	池穴村	池穴村	池穴村	宇宮原村	馬佐村	津風呂村	津風呂村
	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村	高瀬村

熊本		豆田		所判	
宇	竹	宇	竹	宇	竹
土	道	土	道	土	道
肥後	肥後	肥後	肥後	肥後	肥後
山鹿郡	山鹿郡	山鹿郡	山鹿郡	山鹿郡	山鹿郡
一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓
下切村	尾下村	河陰村	岩坂村	鳥子村	島子村
矢野原村	野尻村	白川村	河川村	永野村	色見村
芹口村	津留村	中松村	外牧村	中松村	上見村
笠山村	中見村	高森村	小森村	一園村	高森村
柳村	下野村	久石村	布田村	下野村	久石村
草野村	河原村	吉田村	宮山村	草野村	河原村
御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓

熊本		豆田		所判	
宇	竹	宇	竹	宇	竹
土	道	土	道	土	道
肥後	肥後	肥後	肥後	肥後	肥後
山鹿郡	山鹿郡	山鹿郡	山鹿郡	山鹿郡	山鹿郡
一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓
下切村	尾下村	河陰村	岩坂村	鳥子村	島子村
矢野原村	野尻村	白川村	河川村	永野村	色見村
芹口村	津留村	中松村	外牧村	中松村	上見村
笠山村	中見村	高森村	小森村	一園村	高森村
柳村	下野村	久石村	布田村	下野村	久石村
草野村	河原村	吉田村	宮山村	草野村	河原村
御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓	御船出張所管轄ヲ除クノ外一圓

山形		所	
山形	所	喜多方	坂下
寒河江	尾花澤	野澤	野澤
東根	天童	野澤	野澤
羽前 南村山郡	羽前 北村山郡	羽前 南村山郡	羽前 北村山郡
尾花澤出張所管轄ヲ除クノ外一圓	尾花澤出張所管轄ヲ除クノ外一圓	野澤出張所管轄ヲ除クノ外一圓	野澤出張所管轄ヲ除クノ外一圓
土生田村 大石田村 駒籠村 萩ノ袋村 正殿村 行澤村 六澤村 母袋村	高屋村 中郷村 宮内村 岩根澤村 吉川村 三泉村 新吉田村	本飯田村 今宿村 大浦村 名木澤村 丹生村 高橋村 細野村	五十澤村 岩ヶ盛村 次年子村 雄谷田村 雄谷澤村 知澤村
西根村 米澤村 幸生村 原村 日和田村	日田村 活動新田 海味村 砂子開村 入間村 谷地村 箕原村	富雄村 尾花澤村 野黒澤村 原田村 北郷村 富山村 下柳渡戸村	横山村 鷹巣村 二藤坂村 川前村 寺内村 押切村 延澤村 銀山新畑村
岩木村	松川村 白岩村 間澤村 志津村 岩木村	山ノ内村 川前村 二藤坂村 寺内村 押切村 延澤村 銀山新畑村	田澤村 豊田村 午房野村 中島村 中島村 上野畑村

始審裁判所		所	
新庄	米澤	酒田	鶴岡
左	高	上	小
羽前 西村山郡	羽前 東田川郡	羽前 西田川郡	羽前 西田川郡
寒河江出張所管轄ヲ除クノ外一圓	上小松出張所管轄ヲ除クノ外一圓	上小松出張所管轄ヲ除クノ外一圓	上小松出張所管轄ヲ除クノ外一圓
今泉村 伊佐澤村 下原地村 下馬場村 上原田村 宮村 五十川村 石那田村 高野村 高岡村 手ノ子村	歌丸村 上小松村 高道路村 小坂村 下原田村 小出村 白鬼村 馬場村 馬場村 深山村 松原村 添川村	河井村 中上松村 岩倉村 須郷村 大舟村 丸ノ木村 草岡村 葛瀨村 中山村 横澤村 高峰村	西荒屋村 谷定村 中橋村 齊藤村 松根村 大綱村 熊山村 上田澤村 下田澤村
東大塚村 西大塚村 小松村 高豆蔵村 白川村 廣河原村 朴澤村	東大塚村 高豆蔵村 白川村 廣河原村 朴澤村	時庭村 河原小澤村 寺栗村 大瀬村 廣野村 畔野村 高野村 横田尻村 高玉村 中村	常盤木村 金谷村 民田村 八ノ奥屋村 實谷村 中野新田村 上名川村 松澤村
東大塚村 高豆蔵村 白川村 廣河原村 朴澤村	東大塚村 高豆蔵村 白川村 廣河原村 朴澤村	時庭村 河原小澤村 寺栗村 大瀬村 廣野村 畔野村 高野村 横田尻村 高玉村 中村	東大塚村 高豆蔵村 白川村 廣河原村 朴澤村
上伊佐澤村 黒川村 宇津澤村 小屋村	上伊佐澤村 黒川村 宇津澤村 小屋村	成田村 森村 萩野村 鮎貝村 山口村 黒澤村	東大塚村 高豆蔵村 白川村 廣河原村 朴澤村

盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡	
久慈	横田	新町	黒澤	花巻	郡山	沼宮内	磐石	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手
久慈	横田	新町	黒澤	花巻	郡山	沼宮内	磐石	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手
久慈	横田	新町	黒澤	花巻	郡山	沼宮内	磐石	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手
久慈	横田	新町	黒澤	花巻	郡山	沼宮内	磐石	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手

盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡		盛岡	
久慈	横田	新町	黒澤	花巻	郡山	沼宮内	磐石	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手
久慈	横田	新町	黒澤	花巻	郡山	沼宮内	磐石	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手
久慈	横田	新町	黒澤	花巻	郡山	沼宮内	磐石	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手
久慈	横田	新町	黒澤	花巻	郡山	沼宮内	磐石	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手	南岩手	北岩手

明治二十一年十月 省令 司法省甲第一號

一七一

拂受高一ト口ノ代金

證券印紙	五百圓未滿	百分ノ七
烟草印紙	五千圓未滿	百分ノ八
訴訟用印紙	五千圓以上	百分ノ九
賣藥印紙	五百圓未滿	百分ノ四
登記印紙	五百圓以上	百分ノ五

第十七條 返納印紙ノ下面稅トアルヲ「定價」ト改メ「代價」トアルヲ「代金」ト改ム

○大藏省令第十三號

今般勅令第六十六號登記印紙規則第三條ニ依リ登記印紙ノ種類定價ヲ定ムルコト左ノ如シ但印紙ノ見本ハ別ニ之ヲ頒示ス

明治二十一年十月二十四日 大藏大臣伯爵松方正義

登記印紙ノ定價	印紙ノ種類
一貳錢五厘	茶褐色
一五錢	同
一拾錢	同
一五拾錢	同
一壹圓	青色
一貳圓	同
一五圓	同

○陸軍省令第二十一號

明治十九年七月當省令甲第三十四號 陸軍隊附下士卒埋葬規則中左ノ通改正ス

明治二十一年十月二十六日

第三條 死去シタル者アルトキハ其旨速ニ本隊及校團等ヨリ本人所轄ノ郡區役所ニ通報シ當該郡區役所ハ親族ニ達シ若シ死體ノ引受ヲ願フ者ハ二日以内ニ死者所屬ノ隊及校團等ニ願出ツヘキ旨ヲ告ケシメ其期日内ニ願出テサルトキハ陸軍埋葬地ニ葬ルヘシ但傳染病等ニ因リ二日ノ期限ヲ待ツヘカラサル者ハ此限ニアラス

第四條第七條「士官生徒」ノ下ニ「及ヒ士官候補生」ノ七字ヲ挿入ス

○逓信省令第三號

明治十九年六月逓信省令第十六號三等郵便局長手當年額表左ノ通改定ス

明治二十一年十月二十七日

逓信大臣子爵榎本武揚

官	等	六等以上	七	等	八	等	九	等	十
上	級	四百圓以上	七拾貳圓	四拾八圓	貳拾四圓	拾貳圓	拾貳圓	拾貳圓	拾貳圓
下	級	八拾五圓以上	六拾圓	四拾六圓	拾八圓	九圓六拾錢			

○内務省令第九號

明治十年十月内務省令第二十一號布達土石掘取規則ヲ廢止ス
明治二十一年十一月十日

内務大臣 伯爵 山縣有朋

○大藏省令第十四號

明治八年第九十五號布告新舊公債證書發行條例同九年第八號布告金祿公債證書發行條例同十三年第四十七號布告金札引換公債條例同十六年第四十七號布告中道鐵道公債證書條例同第四十八號布告金札引換無記名公債證書條例ニ據リ發行シタル諸公債證書ノ取扱ハ金祿公債金札引換公債金札引換無記名公債證書ノ利子支拂期日ヲ毎年五月一日ヨリ同二十五日マテ十一月一日ヨリ同二十五日マテトスルノ外明治十九年十月大藏省令第三十號整理公債取扱順序第十三條ヨリ第三十一條マテノ各條ニ據ル但共第十四條第十六條第二十條第二十一條第二十三條第三十一條中無記名證書ニ該當スル取扱ハ新舊公債證書發行條例金祿公債證書發行條例金札引換公債條例ノ記名證書ニ適用セサルモノトス

本令ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○大藏省令第十五號

大藏大臣 伯爵 松方正義

明治十一年五月大藏省令第十三號布達起業公債證書條例第一條第二節但書第二條第一節中「第六條ヨリ除キ」マテノ十八字「外國人ヲ除ク」外ノ八字同但書「外國人ヲ除キ」ノ六字及第四條第五條第六條第七條ヲ削除シ證書ノ賣買讓與紛失消滅汚染毀損其他ニ係ル事項ハ總テ明治十九年十月勅令第六十六號整理公債條例並同年同大藏省令第二十號整理公債取扱順序ニ據ル但共取扱銀行ハ總テ從

明治二十一年十一月 省令 内務省第九號 大藏省第十四號 第十五號

前ノ通トス

本令ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

明治二十一年十一月十四日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省令第十六號

明治二十二年十一月廿三日布達中舊貨幣新貨ト交換ノ儀本年十二月三十一日限り廢止ス

明治二十一年十一月二十四日

大藏大臣伯爵松方正義

(參照) 明治二十二年十一月廿三日布達

舊貨幣新貨ト交換並公納ノ儀明治二十一年十二月廿七日布達ヲ以テ本年十二月迄延期俟處尙懸隔ノ次第有之
道ヲ相違候迄令延期俟候此旨布達候事
但交換代金ノ儀ハ昨明治二十一年九月當省令第四十二號達ノ通候事

○逓信省令第四號

鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱細則左ノ通之ヲ定ム

第一條 鐵道所屬ノ電信電話線ニ依リ傳送スル公衆ノ電報ハ電信局ノ設置ナキ地ノ鐵道電信又ハ

電話取扱所ヨリ發送スルモノニ限ルヘシ但鐵道乘客ハ電信局ノ設置アル地ニ於テモ之ヲ發送スルコトヲ得

第二條 鐵道所屬ノ電信電話線ニ依リ傳送スル公衆ノ電報ニシテ電信局ノ設置ナキ地ニ宛テ發送スルモノハ留置ト爲シ又ハ郵便配達ニ付スヘシ

第三條 公衆ノ電報ヲ取扱フ鐵道電信又ハ電話取扱所ノ位置名稱及通信取扱時間ハ之ヲ告示スヘシ

明治二十一年十一月二十四日

逓信大臣子爵板本武揚

○陸軍省令第二十二號

今般陸軍諸隊編制表改正看護卒ヲ看護手ニ被改候ニ付其處分方左ノ通定ム

明治二十一年十一月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一 現今現役豫備役及後備役中ノ看護卒ハ其儘服役セシム

一 現役看護卒中近衛各師團ニ於テ六百六十八名ハ當分在營セシメ其他ハ此際歸休セシム

一 本年徵募セシ現役看護卒ハ此際補充員ニ組織一箇年ノ後第一豫備徵員ニ編入ス但一年志願兵ハ此限ニ在ラス

○陸軍省令第二十三號

士官學校幼年學校乘馬學校砲兵射的學校教導團喇叭卒概則中左ノ通改正ス

明治二十一年十一月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第七條中「然レトモ卒業ノ目途ナキ者」ノ下ニ「又ハ行狀不正懲戒ヲ加フルモ到底改換ノ目途ナキ者」ノ二十三字ヲ追加ス

同條中「檢査ノ上」ノ四字ヲ削除ス

○陸軍省令第二十四號

明治二十年一月省令第一號陸軍教導團定員表中病院ノ區畫ヲ左ノ甲表ノ通改メ歩騎砲工兵隊ノ畫中

乙表ノ軍醫看護長ヲ增加シ又備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治二十一年十一月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

病院附ノ軍吏及書記ハ本部附軍吏及書記ノ中ヨリ兼務セシム

明治二十一年十一月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

病院附ノ軍吏及書記ハ本部附軍吏及書記ノ中ヨリ兼務セシム

明治二十一年十一月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

病院附ノ軍吏及書記ハ本部附軍吏及書記ノ中ヨリ兼務セシム

明治二十一年十一月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○內務省令第十號

香川縣
愛媛縣

勅令第七十九號ヲ以テ愛媛縣ヲ分割シ香川縣ヲ置カレタルニ付テハ該縣會議員選舉及地方稅分割等ノ手續左ノ通之レヲ定ム

第一條 縣會議員ハ各改選ノ手續ヲ爲且常置委員ヲ選舉ス可シ但議員ノ數ハ知事之レヲ定メ次回改選ヨリ會議ニ於テ定ム可シ

第二條 地方稅ノ收出豫算ハ各更ニ會議ヲ開キ之レヲ議定ス可シ但議定前ニ於テ事務施行上費用ヲ要スルトキハ舊縣會ニ於テ議定セシ豫算ニ依リ假ニ其幾部ヲ徵收支出スルコトヲ得

第三條 前條收出豫算ヲ議定スル會議ハ各通常會トス但十三年當省乙第十二號達議員ノ任期計算ニハ算入セサルモノトス

第四條 地方稅ハ土地人民引渡前日迄ニ屬スル實費ヲ引去リ其殘額ハ引渡前日迄ニ實收セシ歩合ニ依リ之ヲ分割ス可シ

第五條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ對スル寄附ノ金穀物件ニシテ寄附者ニ於テ其費途又ハ使用ヲ指定シタルモノハ該事業所屬縣ノ地方稅ニ組込ムヘシ

但兩縣交渉ノ事業ヲ指定シタル寄附金穀物件ハ其事業ノ歩合ニ應シ分割スヘシ

第六條 土地人民引渡前日迄ニ於テ地方稅ノ怠納金アルトキハ一旦之レヲ除却シ精算ヲ了シ他日怠納者所屬縣ニ於テ之ヲ追徵シタルトキハ其地方稅雜收入ニ組込ム可シ

第七條 地方稅經濟ニ係ル物件ハ總テ其所在ノ縣ニ於テ之ヲ管轄スヘシ

第八條 前年度地方稅收出決算ニ至リ殘餘アルトキハ該年度各實收入ノ割合ヲ以テ分割ス可シ

第九條 前條決算ノ場合ニ於テ不足ヲ生シタルトキハ該年度各實收入ニ割合地方稅規則第五條第

二項ニ依リ之レヲ補充ス可シ但一地方ニ屬スル費額警察費及監獄建築費並病院費ノ類ノ不足ハ各其所屬ノ縣ニ於テ之レヲ補充ス可シ

第十條 備荒儲蓄金ハ土地人民引渡前日迄ノ支出額ヲ引去リ其殘額ハ從來實收ノ歩合ニ依リ分割ス可シ但怠納金アルトキハ第六條ニ準シ處分ス可シ

第十一條 在監人ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ分割ス可シ
輕罪以下ノ已決囚ハ其裁判言渡ノ地
輕罪以下ノ未決囚ハ其裁判管轄ノ地
重罪囚ハ犯罪地逮捕地等土地ニ依リ其裁判管轄ヲ定ムルモノハ其土地所屬ノ縣ニ依リ之ヲ分割ス可シ其他已決囚ハ其裁判言渡シタル地未決囚ハ現ニ拘禁シタル地ニ依リ之ヲ分割ス可シ
不論罪懲治人ハ其裁判言渡ノ地
情願懲治人ハ其情願者所在ノ地
別房留置人ハ其留置ノ監獄

明治二十一年十二月十八日

內務大臣伯爵松方正義

○大藏省令第十七號

拾錢紙幣交換期限ノ備來ル十二月三十一日限ノ處尙來明治二十二年六月三十日迄延期ス依テ右期限內ニ於テ日本銀行本支店又ハ代理店へ交換方申出ツヘシ

明治二十一年十二月二十日

大藏大臣伯爵松方正義

○陸軍省令第二十六號

明治十九年陸軍省令甲第三十六號陸軍恩給取扱規則第三十一條中「兩軍醫ノ檢査」ノ下ニ依リト

明治二十一年十二月 省令 大藏省第十七號 陸軍省第二十六號

一八七

アルヲノ後軍醫長ニ移シテ其診斷證書ヲ審査セシメト改メ同證書式第十五式第十八式中未行ニ「審査」ト肩書シテ「近衛(第何師團)軍醫長氏名〇」ノ一行ヲ加フ

明治二十一年十二月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第十三號

明治十二年十二月二十四日

海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍葬式細則

- 第一條 艦船ニテ旗旒橋半ノ禮ヲ行フニハ所在先任官ノ命ヲ受クルヲ例トス
- 第二條 艦船ニテ旗旒ヲ橋半ニ掲クルニハ先ツ之ヲ上ケ而シテ橋半ニ掲ケ又之ヲ下スニハ先ツ上ケタル後ニ下ス可シ
- 第三條 艦船ニテ國旗ヲ橋半ニ掲クル時船首旗ヲ掲ケアル時ハ同ク竿半ニ掲ケ可シ
- 第四條 艦船ニテ旗旒ヲ橋半ニ掲クル間ハ附屬ノ端舟モ亦其旗旒ヲ竿半ニ掲ケ可シ
- 第五條 分時砲ハ一分時乃至五分時ヲ隔テ發スルヲ例トスト雖モ時宜ニ由リ稍々其間歇ヲ伸フルモ妨ケナシ
- 第六條 洋中等ニテ水葬シタル時ハ其場所ノ經緯度ヲ記載シ歸港ノ後軍務局ニ報告ス可シ
- 第七條 儀仗兵ノ指揮官ハ死者ヨリ後任ノ者ヲ以テス可シ
- 第八條 儀仗兵中砲隊ハ喪家ニ面シ或ハ艦船ヨリ陸上ニ送葬スル時ニハ海岸適宜ノ場所ニ砲ヲ橫隊ニ備ヘ柩ノ喪家ヲ發スル際或ハ艦船ヨリ陸上ニ送葬スル時ニハ其行列ニ加入スル際柩ニ對シテ禮式ヲ爲シ然ル後縱隊ニテ行列ノ定位ニ在テ行進ス其他時宜ニ應シテ動作シ埋葬地ニ到着ス

ル時ハ城ノ近傍適宜ノ場所ニ砲ヲ橫隊ニ備ヘ埋葬ノ式終ルヤ禮式ヲ爲シ戰隊ニ轉シテ吊砲ヲ發ス可シ

第九條 儀仗兵中銃隊ノ運動ハ海軍銃隊操式ニ依ル可シ

第十條 儀仗兵中發火兵ハ總監及上長官ニハ二小隊士官以下ニハ一小隊ヲ以テス可シ但之ニ滿タサル儀仗兵ハ其全隊ヲ發火兵トス可シ而シテ發火兵ハ人家稠密ノ埋葬地ニ於テハ其地所轄ノ警察署ニ協議ノ上發火ス可シ

第十一條 樂隊ハ喪家ヲ發スル時或ハ艦船ヨリ陸上ニ送葬スル時ニハ始テ行進スル時埋葬地ニ着スル時及發火兵ノ發火スル時其他幹事ノ指揮ニ從ヒ奏樂ス可シ

第十二條 艦内ニ於テ發火ノ法ハ水葬ノ時ハ柩ヲ水中ニ沈メ所ノ上空ニ向ケ又埋葬ノ時ハ柩ヲ端舟ニ下シタル後其端舟ノ上空ニ向ケ發スルモノトス

第十三條 海上ノ行列ハ左ノ如シ

- 第一 樂隊及儀仗兵ノ端舟
- 第二 祭主ノ端舟
- 第三 柩及葬主ノ端舟
- 第四 陪柩者ノ端舟
- 第五 本艦船准士官以上ノ端舟
- 第六 他艦船准士官以上ノ端舟
- 第七 將官ノ端舟
- 第八 外國海軍會葬人ノ端舟
- 本艦船准士官以上ノ端舟二艘以上ナル時ハ後任者ノ端舟ヲ先ニ先任者ノ端舟ヲ後ニスルモノ

トス

他艦船ノ端舟順次ハ其艦長ノ等級ニ準シ其後任ヲ先ニシ先任ヲ後ニシ各艦船毎ニ順次ヲ立ツ外
國艦船ノ端舟順次モ亦之ニ準ス

第十四條 本艦船及他艦船下士以下會葬人ノ端舟ハ列外ニ在リ而シテ此輩上陸ノ後行列ニ加入ス
可シ

第十五條 陸上ノ行列ハ左ノ如シ

第一 樂隊

第二 儀仗兵

第三 祭主

第四 柩及陪柩者

第五 葬主及親族

第六 儀仗兵

第七 本艦船ノ下士

第八 他艦船營等ノ下士

第九 本艦船ノ准士官以上

第十 他艦船營等ノ准士官以上

第十一 將官

第十二 外國海軍ノ會葬人

儀仗兵ハ一半ヲ柩ノ前ニ一半ヲ柩ノ後ニ列セシムルモノトス

第十六條 下士以上會葬人ノ行列ハ二行ニシテ後任者ヲ先ニシ先任者ヲ後ニスルコト海上ニ同シ

第十七條 儀仗兵ノ行列中ニ在ル旗旗ハ本艦船ノ水兵之ヲ擔持スルモノトス

第十八條 内外國公使領事及其他ノ會葬人ハ最後ニ列ス可シ

第十九條 行列中ニ擔持セル旗旗及樂器ノ喪章ハ歸途ニハ埋葬地ヲ去ル前ニ必ス之ヲ脱ス可シ但
將旗代將旗或ハ旗ハ喪章ヲ脱スルモ之ヲ翻ヘス可ラス

第二十條 陪柩者ハ六名ニシテ成ル可ク死者ト同官同等ノ者ヲ以テ之ニ充ツ若シ同官同等ノ者多
人數ナル時ハ本艦船ノ者及死者ヨリ後任ノ者ヲ以テス可シ又同官同等ノ者六名ニ滿テサル時ハ
次等以下先任ノ者ヲ以テ之ニ充ルモノトス但陪柩者ハ幹事ヨリ指名スルモノトス

第二十一條 陸上行列ニ於テ陪柩者ノ位置ハ柩ノ兩側ニシテ後任ノ者ヲ先ニシ逐次先任ノ者ニ及
フ可シ而シテ最後任ノ者左側ニ列スルモノトス

第二十二條 輿丁トス可キ者ナキ時ニハ水兵十二名ヲ以テ之ニ充ツ但臨時其人員ヲ増減スルモ妨
ケナシ若シ馬車等ヲ用フル時ハ此輿丁ハ柩後ニ隨行セシム可シ

第二十三條 死者ノ等級ニ應シ死者ト同官同等以下一名ヲシテ幹事トシ葬式ノ諸事及行列ノ順次
等ヲ掌ラシム且時宜ニ由リ更ニ若干名ヲシテ之ヲ補助トス但幹事及其補助ハ死者ノ本管長ヨリ
指名スルモノトス

第二十四條 陸上勤務ノ輩ノ葬式行列ノ順次等ハ總テ前諸條ニ準ス可シ

第二十五條 儀仗兵及樂隊ヲ派出スルハ其艦船營所在ノ地ヨリ三里以內海上ヲノ喪家ニ限ルモノトス但海軍大臣ノ特命アルハ此限ニ在ラス

第二十六條 祭主ハ神道教師或ハ僧侶ニ委託スルヲ例トスト雖モ外國派遣中其他已ムヲ得サル時
ハ死者ノ等級ニ應シ上長官以下一名ヲシテ祭主トス可シ又葬主タル可キ親族或ハ故舊ナキ時ハ
成ル可ク死者ト同官同等ノ者一名ヲ以テ葬主トス可シ此葬主ハ喪章トシテ黒紗ヲ以テ帽ノ飾章

並ニ佩劔ノ柄ヲ纏フ可シ

第二十七條 艦船營病院等ニ於テ死者ヲ歛ムル時ハ正服正服ナキ者ハ略服或ハ淨衣ヲ著セシムルヲ法トス

第二十八條 柩ハ布ヲ以テ覆ヒ其上ニ本人生前所用ノ禮帽帶劔ヲ排置スルモノトス

勳章從軍記章アレハ之ヲ行列中ニ攜帶セシム可シ

第二十九條 海軍葬式第二十九條ニ掲グル旗旒及樂器ノ喪章並ニ儀仗兵及會葬人ノ喪章ハ乙號ニ掲クル圖ノ如シ

第三十條 海軍葬式ニ從ヒ禮遇ヲ受ケントスル者ハ其親族或ハ故舊ノ者ヨリ甲號ノ書式ニ準シ之ヲ本人生前ノ所轄廳ヘ請求ス可シ但其所轄廳或ハ艦船營又ハ病院等ニ於テ取扱フ場合ハ此限ニ在ラス

第三十一條 前條ノ請求ヲ受ケタル廳ニ於テハ鎮守府ニ鎮守府ナキ地ニ在テハ最寄所在ノ艦船營ニ儀仗兵ノ派出ヲ照會ス可シ鎮守府又ハ艦船營ニ於テ其照會ヲ受ケタル時ハ死者ノ官等ニ應シ定規ノ兵員ヲ派遣ス可シ

但本文請求ヲ受ケタル廳ニシテ部下ニ兵員アルモノハ本文ノ限ニ在ラス若シ死者ノ官等ニ依リ定規ノ兵員ヲ派遣スルコトヲ得サル場合ニハ本文ニ據ル可シ

甲號

書式用紙美濃紙

故何某葬式ニ付上請

何區何町何番地

何府縣華士族平民

官位勳故姓

名

右者何月何日死亡來何月何日午前午後第何時出柩何町ヲ經テ海軍或ハ何埋葬地ヘ葬式執行候間海軍葬式之通御取計被下度此段上請仕候也

年月日

所轄廳名

御中

右親族何府縣華士族平民

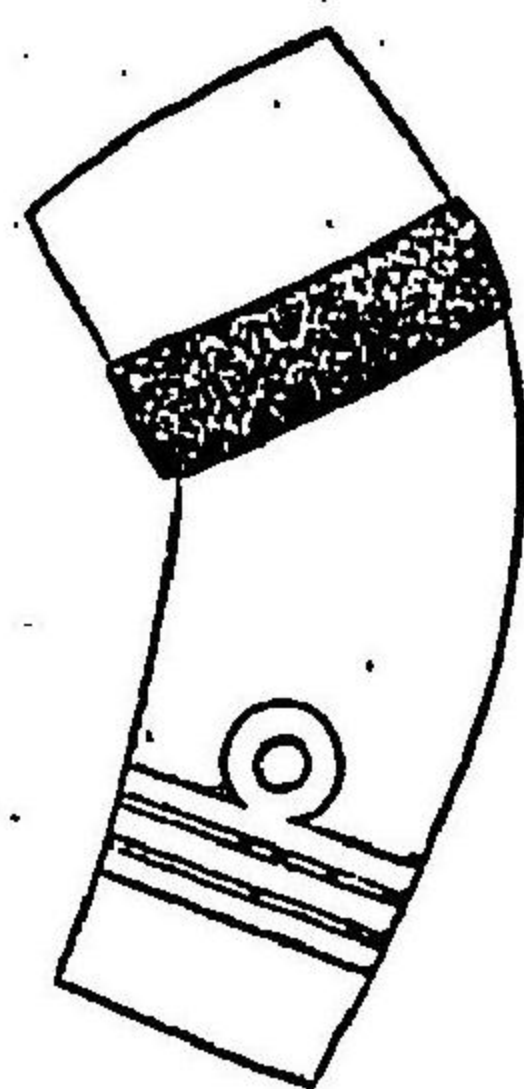
姓 名 印

乙號

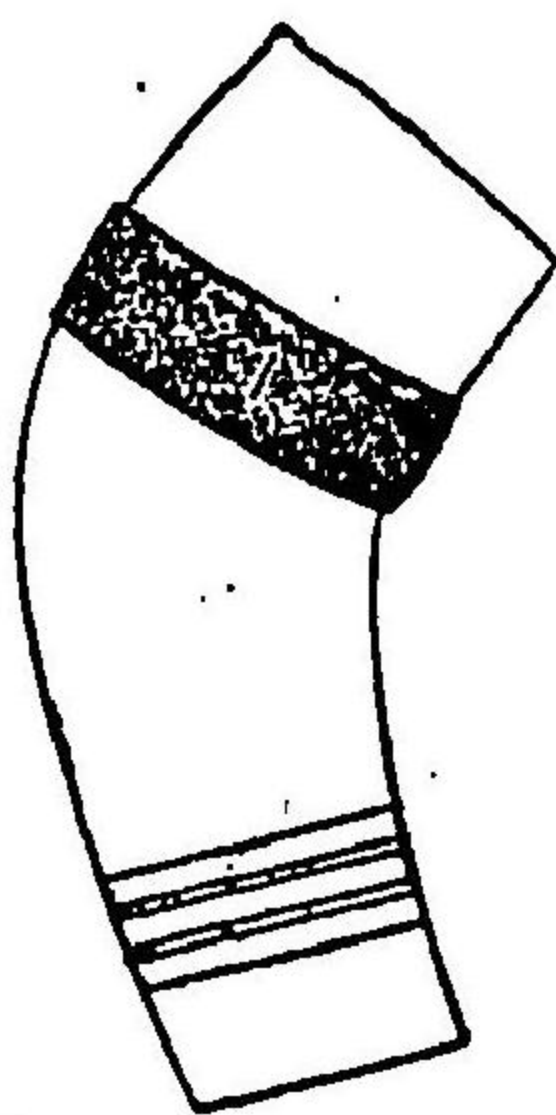
旗章ニ喪章ヲ附シタル圖幅四寸 紗ヲ用フ



左腕ニ喪章ヲ附シタル圖幅二寸 紗ヲ用フ



同上裏面ノ圖



陸軍軍醫學校候補生取扱規則左ノ通定ム
但明治十九年 五月省令 甲第二十一號 陸軍軍醫學校候補生取扱規則廢止ス
明治二十一年十二月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍軍醫學校候補生取扱規則

- 第一條 候補生缺員スルトキハ陸軍省醫務局長ヨリ帝國大學總長ニ協議シ醫科大學學生中ヨリ志願者ヲ召集ス醫務局長其志願人名ノ通牒ヲ受クルトキハ本人ヲシテ願書ニ履歷書ヲ副ヘ之レヲ出サレム
- 第二條 醫務局長ハ前條ノ願書ヲ受クルトキハ醫官ヲシテ體格ヲ検査セシメ其格ニ合スルモノハ更ニ入校證書並戸籍明細書ヲ出サレメ審査ノ上其人名書ニ考科表ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達シ大臣ノ決定ニ由リ陸軍醫官候補生又ハ陸軍藥劑官候補生ヲ命シ誓文帖ニ署名捺印セシメ然ル後本人及名籍ヲ本校ニ移シ同時ニ授業ヲ帝國大學總長ニ依托スヘシ
- 第三條 醫務局長ハ第二條ニ由リ體格不合格ノ者アルトキハ願書ヲ本人ニ下付シ且帝國大學總長ニ之ヲ通牒スルモノトス
- 第四條 醫科大學長ニ於テ傷痍疾病ニ由リ學業ニ堪ヘサル者又ハ屢法則ヲ犯シ品行不良ノ者ト認定シテ之ヲ本校長ニ通牒スルトキハ本校長ハ審査ノ上陸軍衛生部現役士官補充條例第四條第五條ニ由リテ之ヲ取扱フモノトス
- 第五條 第二條ノ入校證書ハ東京府下住居ノ者ニシテ府内ニ於テ土地又ハ家屋所有ノ者二名ヲ以テ身元保證人ト爲シ東京府區(戶)長ノ與書ヲ得テ醫務局長ニ出スヘシ
- 入校中本人戸籍上ノ異動ハ勿論身元保證人轉居スルトキハ其旨届出ヘシ又身元保證人他府縣ニ轉居シ或ハ其資格ヲ失ヒ或ハ保證ヲ辭シ或ハ死亡シタルトキハ必ス其代人ヲ選定シテ届出ルモ

ノトス

- 第六條 候補生ハ本校ニ寄宿シ全科卒業迄醫科大學ニ通學セシム
- 第七條 候補生入校中借用ノ物品ヲ破損紛失スルトキハ之ヲ辨償セシムルモノトス若シ本人ニ於テ辨償セサルトキハ保證人ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ
- 第八條 候補生ハ醫科大學ノ全科卒業ノ上ハ陸軍衛生部現役士官補充條例ニ依テ之ヲ取扱フモノトス
- 第九條 陸軍衛生部現役士官補充條例中候補生出身ノ見習醫官見習藥劑官ハ本校長ノ管理ニ屬ス故ニ部隊ニ配布スルト雖モ其俸給及諸手當等ハ本校ヨリ支給スルモノトス
- 第十條 願書及誓文等ノ書式左ノ如シ

願書書式 用紙 白紙

醫科大學第何年級ニ在候處今般陸軍醫官候補生(陸軍藥劑官候補生)志願ニ付御検査ノ上御採用被下度就テハ御採用ノ上ハ御規則遵守可仕候依テ別紙履歷書相添ヘ保證人御署ヲ以テ此段奉願候也
年 號 月 日

何府(縣)何族(平民) 戶主ニアラサレハ何某子弟等

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留) 本人 姓 名 印

何府(縣)何族(平民) 何府(縣)何族(平民) 何府(縣)何町(村)何番地住(寄留)

東京府何區(郡)何町(村)何番地住(寄留) 本人 姓 名 印

保證人 姓 名 印

陸軍省醫務局長陸軍軍醫總監姓名殿

履歷書書式 用紙美 白紙

履歷書

- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何學校(何塾)ニ入り何學科修業
 - 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何學研究ノ爲メ何國ニ在留
 - 一 何年何月何學校ニ於テ何學科卒業證書ヲ受
 - 一 何年何月何々ニ依テ賞與何々下賜
 - 一 何年何月何ノ科ニ依リ何前被申付
- 右之通相違無之候也

年號月日

入校證書書式 用紙美 白紙

入校證書

本人 姓 名 印

某儀

此度陸軍出身志願ニ付陸軍醫官候補生(陸軍藥劑官候補生)被申付候上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕ハ勿論入校中軍紀ヲ紊リ若クハ屢々法則ヲ犯シ又ハ品行不良等ニシテ退校ヲ命セラレ候節ハ退校ノ日ヨリ三十日以内ニ官給費用一切本人又ハ身元保證人ニテ擔價可仕其他本人身上ノ債ハ何等ニ依ラヌ身元保證人ニ於テ引受可申依テ保證人違違證書如斯候也

年號月日

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

戶主ニアラザレハ何某子弟等

本人 姓

名 印

年號何月何日生

何年何箇月

何府(縣)何族(平民)

東京府何區(郡)何町(村)何番地住(寄留)

身元保證人 姓 名 印

同

同

同

陸軍省醫務局長陸軍軍醫總監姓名名顯

前稱之趣調査候應相違無之候也

年號月日

東京府何區長(何郡町村)何長 姓 名 印

戶籍明細書書式 用紙美 白紙

戶籍明細書

本籍何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地 寄留東京府何區(郡)何町(村)何番地

何族(平民)

姓 名 印

何年何月生

父 何某存(亡)

母府縣族籍何某女

養父 何某存(亡)

養母府縣族籍何某女

兄弟姊妹 何某

右之通相違無之候也

年號月日

誓文

陸軍出身志願ニ付今般陸軍醫官候補生(陸軍藥劑官候補生)ニ御採用奉願候節御許容相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸

軍ニ從事可仕且候補生中ノ家事故障ハ勿論假令病氣ト雖モ私ニ退校ヲ請願致シ候儀ハ決シテ不仕候依テ書文如件
年 號 月 日

陸軍省 官 候 補 生
(陸軍省 官 候 補 生)
姓 名 印

法令全書

訓令

○大藏省訓令第一號

博覽會共進會開設ニ際シ煙草菓子賣藥ヲ出品シ且ツ共會場内外ニ於テ特ニ販賣スルトキ其取扱方ハ左ノ通心得ヘシ
北海道廳 府 縣

但明治十一年六月内務大藏兩卿連署乙第四十七號達ハ自今廢止ス
明治二十一年一月七日 大藏大臣伯耆松方正義

- 一 從來免許ノ營業人ニシテ出品スルモノハ別段免許證札ヲ受ルニ及ハス
- 一 印紙ノ貼用ヲ要スル物品ハ總テ其規則ニ遵テ印紙ヲ貼用スヘシ
- 一 出品主ニシテ其出品ノ販賣店ヲ開設スルモノモ亦前二項ニ準ス但共店頭ニ免許何營業人住處氏名ヲ記載セル標札ヲ掲出スヘシ
- 一 前項販賣店開設ヲ許可スルニ當リ場内狹隘ノ爲メ止ムヲ得サルトキハ其場近旁ニ一定ノ區域ヲ限リテ之ヲ許可スルコトヲ得

(參照) 明治十一年六月内務大藏兩省乙第四十七號達

各府縣於テ一時博覽會相開候節列品中酒類煙草賣藥等販賣方成規有之物品場中於テ賣渡ノ儀ハ其出品人兼テ右條諸免許ノ者ニ候ハ、別段受賣免許證札申受ニ不及尤煙草ノ儀ハ假令見本品ヲ共需米ニ應シ賣渡候節ハ成規ノ通り印紙貼用可致此旨相達候事
但開場中一時賣物店開設屆候向モ本文ニ准シ受賣證札申受ニ不及候得共何營業免許人何某ト記載セル木製ノ看板ヲ見易キ場所ヘ必ス掲示可致事

○大藏省訓令第二號

明治十八年十一月第七十四號達報告表調理順序別冊中自今第七號第十號第十八號第二十號樣式報告

府 縣 沖繩縣

ヲ廢止ノ期限一覽表中該表件名並期限共削除ス
明治二十一年一月七日 大藏大臣伯爵松方正義

○農商務省訓令第一號
自今左記ノ鑛物日本抗法第三款所屬トシテ取扱候條從前許可ヲ得タル試掘借區券此際返納セシム
明治二十一年一月七日 農商務大臣伯爵黑田清隆

寒水石(大理石) 斑石(溫石) 燧石 硝子石 蠟石
府縣 岩手縣 青森縣 山梨縣 秋田縣 沖繩縣 除ク
○農商務省訓令第二號
明治二十年^{十二}月^{十二}日 當省令第四號ニ據リ設置スヘキ茶業組合及會議所ハ本年二月二十九日マテニ之ヲ設ケ其規約ヲ議定セシムヘシ
明治二十一年一月九日 農商務大臣伯爵黑田清隆

○內務省訓令第一號
官國幣社造修不用ノ古材木屑等二十年度以降處分ニ係ル分ハ現物並代金トモ共社ヘ下渡スヘシ
明治二十一年一月十日 內務大臣伯爵山縣有朋

○海軍省訓令第一號
運用術教員タル兵曹缺員ニ際シテハ一等水兵ヲ用フルヲ得
明治二十一年一月十一日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○大藏省訓令第三號
北海道廳 府縣

當省ノ主務ニ關係アル廳府縣令ハ今後發布ノ都度當省ニ報告スヘシ
明治二十一年一月十四日 大藏大臣伯爵松方正義

○海軍省訓令第二號
海軍軍醫官服務通則第十六號及同第二十號野紙中「攜帶水入」ノ次ニ「攜帶連具」ノ一欄ヲ追加ス
明治二十一年一月十四日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省訓令第三號
海軍病院通則院第十一號及院第十三號野紙中「キル」ノ壓搾器ノ次ニ「攜帶連具」ノ一欄ヲ追加ス
明治二十一年一月十四日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省訓令第四號
自今看護手看病夫ノ攜帶連具ヲ療用品中ノモノト定ム
明治二十一年一月十四日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省訓令第五號
本年士官ノ學術検査ハ四月一日ヨリ下士ノ學術検査ハ三月十六日ヨリ施行ス可シ
明治二十一年一月十四日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省訓令第六號
本年定期檢閲ハ四月十六日ヨリ施行シ其報告ハ六月三十日マテニ進達ス可シ
明治二十一年一月十四日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省訓令第七號
海軍爲換順序別冊之通相定メ來二十一年度ヨリ施行ス
明治二十一年一月 訓令 海軍省第一號 第二號 第三號 第四號 第五號 第六號 第七號 三

但別冊ハ別ニ頒ツ (別冊略ス)

明治二十一年一月十七日

海軍大臣伯爵西郷從道

○逓信省訓令第一號

北海道廳 府縣

西洋形商船海員雇入雇止證書用紙拂下代金ハ來明治二十一年度ヨリ各廳ノ雇入トシテ整理スヘシ

但一周歲用紙拂下高ハ別表書式ニ倣ヒ調製ノ上翌年度十二月三十日限り當省へ報告スヘシ

明治二十一年一月十九日

逓信大臣子爵榎本武揚

別表書式

明治何年度中西洋形船海員雇入雇止證書用紙受拂明細表

廳名

種別	越	高	受	取	高	小	計	拂	下	高	拂	下	浦役場控無	
													代	支
大雇入證書用紙														
小雇入證書用紙														
雇止證書用紙														
總計														

○大藏省訓令第四號

廳 府縣

歳入下戻金ノ内當該年度ノ歳入ヨリ下戻承認ヲ得仕拂切符發付シタルモノニシテ出納閉鎖ノ期ヲ過キ現金受取未済ノモノアルトキハ殘ノ計算書番號年度科目金員及國庫金出納所名トモ詳記シ承認取消ノ義稟申スヘシ

明治二十一年一月二十四日

大藏大臣伯爵松方正義

○海軍省訓令第八號

海軍一般

自今各應勤務ノ下士卒ハ其本籍ヲ横須賀屯營ト定ム

但被服給與ヲ除クノ外支給向其他取扱ハ總テ從前ノ通タルヘシ

明治二十一年一月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

○大藏省訓令第五號

府 縣

明治二十一年度内國稅徵收費計算帳簿ノ儀ハ明治二十一年度ノ組織ニ據リ調理スヘシ

明治二十一年一月二十七日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省訓令第六號

府 縣

明治十八年十一月當省第七十四號達標式中報告表ノ部開墾地^{第一}荒地^{第二}異動表^{第三}ハ以來全管計ヲ以テ調成シ郡區譯ケヲ爲スニ及ハス

明治二十一年一月二十八日

大藏大臣伯爵松方正義

○海軍省訓令第九號

海軍一般

横須賀鎮守府所轄航海練習艦龍驤艦自今第三豫備艦ト定メラル此旨心得ヘシ

明治二十一年一月二十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省訓令第十號

海軍一般

龍驤艦第三豫備艦タル間左ノ人員ヲ常置ス

明治二十一年一月二十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

大尉

分隊長

一人

上等兵曹	掌帆長	一人
兵曹	掌砲長屬	一人
一等二等兵曹	掌帆長屬	一人
機關手		一人
船匠手		一人
主厨		一人
一等二等水兵		四人
三等四等水兵		四人
火夫		二人
厨夫		二人

○海軍省訓令第十一號

運用術練習艦富士山艦ヲ常分横須賀鎮守府旗艦ニ兼用ス此旨心得ヘシ

海軍一般

明治二十一年一月三十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省訓令第十二號

富士山艦旗艦兼用ノ間左ノ人員ヲ增加ス

海軍一般

明治二十一年一月三十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

大尉	航海長	一人
少尉	分隊士	二人

○海軍省訓令第十三號

待命非職ノ上長官士官准士官ハ自今軍務局長ヲシテ管轄セシム

海軍一般

明治二十一年二月二日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省訓令第十四號

葛城艦大和艦武藏艦定員中水雷長掌水雷長屬ヲ廢ス

海軍一般

○農商務省訓令第三號

明治十九年十一月 農商務省訓令第十八號ヲ廢ス

北海道廳 府縣

明治二十一年二月四日

農商務大臣伯爵黑田清隆

(參照) 明治十九年十一月 農商務省訓令第十八號

北海道廳 府縣

本年五月訓令第四號ヲ以テ賄貸付金徵收取扱順序相違候處當省所管森林諸收入ノ内貸付ニ係ルモノハ渾テ大藏省訓令第五號及第十二號ニ準據シ整理候條ト心得ヘシ

但大藏省訓令第五號第五條第三項ノ場合ニ於テ負債主大林區設置アル地方へ移轉シタルトキハ其大林區屬へ其他ハ移轉シタル地ノ總府縣へ引繼ケヘシ

○海軍省訓令第十五號

明治十六年十一月 丙第百十六號海軍下士以下被服供給與概則來ル三月三十一日限り廢止ス

海軍一般

明治二十一年二月六日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省訓令第十六號

海軍下士以下被服供給規則別冊ノ通相定來ル四月一日ヨリ施行ス

海軍一般

明治二十一年二月六日

但別冊ハ別ニ頒布ス
海軍大臣伯爵西郷從道

(別冊)

海軍下士以下被服供給規則

第一章 被服供給

- 第一條 海軍下士以下ニハ第一表ニ掲載セル其官職相當ノ被服物品ヲ毎年四月十月ノ二期ニ別テ給與ス
- 第二條 新ニ徵募シタル者ニハ第二表ニ掲載セル其職相當ノ被服物品ヲ給シ爾後保存満期ニ至レハ更ニ之ヲ換給ス
- 第三條 新ニ徵募シタル者ニハ前二條ノ外最初一度限り第三表ニ掲載セル其職相當ノ被服物品ヲ給與ス
- 第四條 第四表ニ掲載スルモノハ準備品トシ艦船營ヘ備置キ入用ノ際貸與スルモノトス
- 第五條 被服物品ニシテ寸法ヲ要スルモノハ大中小ノ三種ニ區別シ裁縫スヘキモノハ裁縫ノ上之ヲ給與ス
- 第六條 定期給與ノ期月ニ至リ尙次回ノ定期給與期月迄保存ニ堪ニヘキ第五表ノ被服物品ヲ所持スル者ニハ其代價ヲ給與ス
- 第七條 一箇年以上服役シタル者ハ其官職ノ等級ニ從ヒ寒暑ノ季節ニ拘ハラズ平常必ス第六表ニ掲クル定數ヲ所持スヘシ
- 第八條 定期給與ノ期日(四月一日)ニ際シ傷疾疾病又ハ逃亡留置收禁若クハ處刑其他私事ヲ以テ不在ノ者ハ該期ノ被服物品ヲ給セズ
但公務上傷疾疾病ノ者ニハ歸着ノ際該期ノ被服物品ヲ給シ其他ハ期日ヨリ三箇月未滿ニシテ歸着ノ者ニ限り該期分ヲ給與ス
- 第九條 轉職又ハ黜陟等ニ依リ制服異ナル者ニハ其職相當ノ被服定數ヲ換給ス但徽章ヲ換付シ又

ハ縫補シテ所用ニ堪ユルモノハ之ヲ修理下付スルモノトス

- 第十條 免官免役死亡若クハ歸休ヲ命セラレ其他准士官ハ昇級等ノ者ニハ當テ所持セシ第一表及第二表ノ内寒暑ノ季節ニ應シ正服(附屬品共)一着ヲ下付シ其他ハ總テ還納セシム但徽章ハ總テ除去スヘシ
- 第十一條 退職ノ者ニハ被服物品ノ給與ハ停止シ而シテ當テ所持スル處ノ第二表ノ内毛布及表裏ハ還納セシム
- 第十二條 豫備兵後備兵及歸休兵等召募ノトキハ還納ノ古衣ヲ以テ第二表及第三表ノ定數ヲ貸與ス
- 第十三條 逃亡若クハ處刑者ノ被服物品ニシテ該艦船營ニ殘シアルトキ該品ハ其名籍ヲ送付スル廳ヘ送致スヘシ而シテ十八箇月以上復役セサル者ハ之ヲ還納スルモノトス但還納ノ后復役シタル者ニハ古衣ヲ以テ第二表及第三表ノ定數ヲ給與ス
- 第十四條 下士以下所持ノ被服物品ニシテ艦船營其他公務上ニ於テ非常ノ災害ニ罹リ保護ノ術ナク失亡或ハ損傷シテ其用ニ供シ難キ等實際止ムヲ得サル事情アリ所轄長之ヲ證明スルトキハ更ニ現品ヲ給ス
但此場合ニ於テハ古衣ヲ以テ給スルコトアルヘシ
- 第十五條 自己ノ怠慢ヨリ第六表ノ所持定數ニ不足ヲ生シ又其他ノ事故ニ依リ定期給與外ニ被服物品ヲ給與スル者アルトキハ本人俸給ヨリ其代價ヲ辨償セシム
- 第二章 被服取扱及記簿
- 第十六條 主計官ハ毎期月前定員ニ應シ第一表ノ被服物品ヲ最寄倉庫ヨリ受込置キ期日ニ至リ下付スヘシ而シテ殘餘ヲ生スルトキハ貯藏シ次期請求ノ際差引受取ルモノトス
但緊留艦及屯營ニ於テハ殘品ハ倉庫ヘ返納スヘシ

第十七條 分隊長機關長番兵司令機關學校部長其他下士以下ヲ統率スル者ハ被服點檢ノ際其所持
品第七條ノ定數ニ適スルヤ否ヤヲ精査シ若シ第十四條及ヒ第十五條ノ事由ニ依リ其他定期外ニ
給與スヘキ者アルトキハ總テ之ヲ調査シ所轄長ノ認可ヲ得テ主計官ニ請求スヘシ主計官ハ其都
度最寄倉庫ヨリ受取ルモノトス

但貯藏品アルトキハ其内ヲ以テ下付スヘシ

第十八條 艦船外國又ハ倉庫隔絶ノ地ニ航海スルトキハ其季節ニ應スヘキ第一表ノ定數及第二表
ノ内適宜貯藏スルモノトス

第十九條 主計官ハ第十六條第十七條及第十八條ノ被服物品ヲ下付シタルトキハ第九號書式ニ照
シ報告書ヲ製シ毎年四月十月ノ二期ニ會計局供給課ヘ送付スヘシ但第十五條ニ依リ拂下タル代
金ハ報告書ト共ニ送付スルモノトス

第二十條 倉庫ニ於テハ第十號書式ニ照シ毎年四月十月ノ二期ニ會計局供給課ヘ報告スヘシ

第二十一條 分隊長機關長番兵司令機關學校部長其他下士以下ヲ統率スル者ハ毎期月前被服點檢
ノ際ニ於テ第六條ニ依リ代價ヲ給與スヘキ者ヲ調査シ所轄長ノ認可ヲ得テ其人名品種金高ヲ主
計官ニ通知シ請求ノ手順ヲ爲スヘシ

第二十二條 主計官ハ被服物品及代價ヲ請求スルトキハ書式ニ照シ需要票ヲ製シ所轄長ノ調印ヲ
得テ第一號被服物品ハ最寄倉庫ヘ第二號代價ハ會計局供給課ヘ送付スヘシ

第二十三條 倉庫及會計局供給課ニ於テハ受領スル所ノ需要票ニ照シ倉庫ハ其物品ヲ整備シ供給
課ハ其代價ヲ精査シ第三號書式ニ照シ交付期日及其場所ヲ記載シ之ヲ請求元ヘ送付スヘシ
第二十四條 主計官ハ被服物品ヲ還納スルトキハ第四號書式ニ照シ還納票ヲ製シ所轄長ノ調印ヲ
得テ現品ヲ添ヘ最寄倉庫ヘ送付スヘシ該倉庫ニ於テハ第五號書式ニ照シ領收證ヲ還納元ヘ送付

スヘシ

第二十五條 被服物品ノ受拂ハ第六號受拂簿ヲ用ユヘシ而シテ本人ヘ下付シタルトキハ第一表ノ
被服物品及代價ハ第七號渡簿ニ第二表ノ被服物品第八號證明表ニ記載シ捺印セシムヘシ

第二十六條 轉勤ノ場合ニ於テハ第七號渡簿ノ拔萃及第八號證明表ヲ乙屬ヘ送付スヘシ

第二十七條 會計局供給課ハ年度ノ始メニ於テ被服物品ノ代價表ヲ調製シ各艦船營ヘ通報スルモ
ノトス

但第十五條ニ依リ拂下ヲナシタルトキハ該代價表ニ依リ徴收スヘシ

第二十八條 倉庫及艦船營ニ於テハ貯藏物品ノ保存方ニ注意シ時々晒乾スヘシ又支出スルニハ必
ス前ニ庫納セシモノヨリ輪次支出スルモノトス

第二十九條 會計局供給課ハ第十五條ニ依リ拂下タル代價ヲ以テ尙欠トシテ更ニ現品ヲ買入ルモ
ノトス

第三章 豫備被服物品

第二十條 會計局供給課ハ第六條ニ依リ被服代價ヲ給與シ剩餘アルトキハ其金額ヲ以テ毎歲被服
物品ヲ購入シ豫備トシテ倉庫ヘ送付スルモノトス

第二十一條 倉庫ハ還納シタル被服物品ヲ調査シ尙所用ニ堪ユヘキモノハ修補若クハ洗濯等ヲ加
ヘ別ニ豫備庫ヲ設ケテ前條ノ物品ト共ニ貯藏スルモノトス但修補若クハ洗濯費用ハ供給課ヘ請
求スルモノトス

第三十二條 豫備品ハ毎歲給與ノタメ購入シタル被服物品ト輪次交換シテ貯藏スルモノトス

第三十三條 豫備品ハ事變ニ際シ若クハ第九條第十二條第十三條及第十四條等ノ場合ニ於テ支出
スルモノトス

第六表 被服所持定數表															中	着						
品目	正服	略服	夏正服	夏略服	帽	帽日覆	靴	靴下	袴	袴釣	長靴下	蒲團履	フナキル襦袢	麻襪	フナキル襦袢	八拾錢同	上同	上同	上同	五六拾錢	五拾錢	
ニホハ	一	二	三		二	二	二	四	一	一	一	二	三	三	三							
トチリ	三		三		二	二	二	四	一	一	一	二	三	三	三							
ヲ																						
ツ	三		三		二	二	二	四	一	一	一	二	三	三	三							
カ	二		二		二	二	二	四				二	三	三	三							
ロタレ	一		二		二	二	二	四	一	一	一	二	三	三	三							
ノ	一		二		二	二	二	四	一	一	一	二	三	三	三							

品目	正服	中着	襪	紋羽襦袢	木綿襦袢	袴下	手袋	雨衣	雨帽	折メス	同紐	毛襪	毛襪卷	夏帽	毛布	衣	袴	同					
正服	二								一				一			一							
中着									一							一							
襪																							
紋羽襦袢																							
木綿襦袢																							
袴下																							
手袋																							
雨衣																							
雨帽																							
折メス																							
同紐																							
毛襪																							
毛襪卷																							
夏帽																							
毛布																							
衣																							
袴																							
同																							

(第一號ヨリ第十號ニ至ル雜形略ス)

外	袴	一							
禮	服								
前	立毛								
袴	革								
小	袋								
脚	絆	一							

○内務省訓令第二號

廳 府 縣

集治監 假留監

明治二十年五月勅令第十二號私設鐵道條例第二十一條公務ヲ以テ往復スル警察官吏及第二十二條囚徒護送ノ官吏ニシテ半價ヲ以テ乘車スル場合ニ於テハ明治十九年六月閣令第十四號及同年六月内務省令第十一號内國旅費ニ屬スル汽車賃半額ヲ支給スヘシ

明治二十一年二月七日

内務大臣伯耆山縣有朋

○海軍省訓令第十七號

海軍 一般

艦船ノ下士卒ニシテ海軍病院へ入院中本艦東京灣外出港後ニ至リ全治退院ノ者ハ一時横須賀屯營へ送附シ其旨本艦へ通知スヘシ

明治二十一年二月十日

海軍大臣伯耆西郷從道

○海軍省訓令第十八號

海軍 一般

小鷹艦定員左表ノ通定ム

明治二十一年二月十三日

海軍大臣伯耆西郷從道

小鷹艦定員表

官名	職名	人員	官名	職名	人員	職名	人員
大尉	艦長	一	兵曹		五	一等水兵	七
少尉		一				二等水兵	六
機關士		一	機關師		一	三等水兵	三
			機關手		二	四等水兵	三
			主厨		一	厨夫	一
合計		三十二人					六

備考 平時ニ在テハ少尉一人兵曹一人二等水兵二人三等水兵四人ヲ減スルコトヲ得

○海軍省訓令第十九號

海軍 一般

小鷹艦迅鯨艦附屬タル間其定員中左ノ人員ヲ常置ス

海軍大臣伯耆西郷從道

明治二十一年二月十三日

機關士 一人

兵曹 一人

機關手 一人

水兵 二人

火夫 三人

○大藏省訓令第七號

十九年七月訓令第三十三號內國稅未納追徵整理順序甲乙號様式凡例中左ノ通り改正ス
明治二十一年二月十五日 大藏大臣伯爵松方正義

甲號様式凡例第二項

一 追徵處分ノ未官損ニ歸セシモノハ其徵稅令書ヲ發セシ年度ノ彙帳へ記入スルモノトス但徵稅令書ヲ發セサルモノハ其指令三月三十一日已前ニ係ルモノハ該當年度四月一日已降ニ係ルモノハ翌年度ノ彙帳へ記入ス

乙號様式凡例第三項

一 未納減額ノ内官損及缺損額並追納額ハ本年度未納彙帳ニ登記セシ金額ヲ記入ス

○海軍省訓令第二十號

海軍一般

陸路三里未滿海路六里未滿ノ各地ニ在ル各應艦船營ノ間ヲ往返スル者ハ海軍內國旅費規則ニ依リ車馬賃及船舶料ヲ支給セス但積須賀長浦間ノ如キ渡船ヲ便利トスル場所及艦船ト上陸場トノ間ヲ往返スル通船賃其他至急ノ場合ニ於テ要スル舟車馬賃ハ豫算定額内ノ虧費ヲ以テ其賃費ヲ支拂フヘシ

明治二十一年二月十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○大藏省訓令第八號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

明治二十二年三月地租改正事務局乙第三號達地券取扱順序中未項地券下與及ヒ書換ヲ爲シタルモノハ云々ノ一項ヲ廢止ス

明治二十一年二月十六日

大藏大臣伯爵松方正義

○海軍省訓令第二十一號

海軍一般

明治二十年六月海軍省訓令第六十七號第二部歲入決算證明式第四條中へ左ノ兩項ヲ追加ス
但貸付返納金決算ニ限リ十九年度ヨリ該書式ニ據リ調製スヘシ(書式ハ別)

明治二十一年二月十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

貸付返納金仕譯書ハ別紙甲號書式ニ據リ正副二通ヲ調製決算帳ニ添付スヘシ

貸付返納金未徵收事由辨明書ハ別紙乙號書式ニ據リ正副二通ヲ調製決算帳ニ添付スヘシ

但未徵收ハ年度歲首ニ於テ徵收ノ期約アル員額及以降増額ニ基キ年度分界ハ金庫出納閉鎖ニ係ラス十九年四月大藏省訓令第五號第七條ニ據ルヘシ

○農商務省訓令第四號

府縣 大林區署設置府縣及沖繩縣ヲ除ク

明治二十年度以降ニ屬スル入林鑑札製造費ハ官林保護費内ヲ以テ支辨候義ト心得ヘシ
但十三年三月内務大藏兩省乙第七號達但書中鑑札製造費仕拂ノ廉ハ取消ス

明治二十一年二月十七日

内務大臣伯爵山縣有朋
農商務大臣伯爵黑田清隆

○陸軍省訓令甲第一號

北海道廳 府縣

明治二十年陸軍省訓令甲第十四號陸軍召集條例第六十五條第六十六條ノ召集旅費概算取扱手續ニ左ノ二項ヲ追加ス

明治二十一年二月十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一 騎砲兵科ノ近衛後備軍驅員兵員ハ近衛充員ニ召集スルモノトシ其區畫ニ合算ス
一 騎砲輜重兵科ノ鎮邊後備軍驅員兵員若干ヲ充員ニ召集スルモノトシ其區畫ニ合算ス但充員ノ

區別人名及召集地ハ後備軍司令部若クハ分營所在地府縣駐在官ヨリ通報ス

○海軍省訓令第二十二號

海軍一般

富士山艦旗艦ニ司令長官用小蒸汽船ヲ屬スル間左ノ人員ヲ增加ス

明治二十一年二月二十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

機關手 二人

火夫 四人

○海軍省訓令第二十三號

海軍一般

海軍下士以下被服毎年四月定期給與ノ分來ル二十一年度ニ限リ五月ニ給與ス

明治二十一年二月二十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○內務省訓令第三號

北海道廳 府縣 奈良 兵庫 岡山 梨島 根和 歌山 德島 愛媛 沖繩 ノ八縣ヲ除ク

神社費中招魂社費及招魂社營繕費ノ儀ハ自今長官知事若クハ取扱主任官ノ領收證書ヲ以テ國庫ニ對シ決算證明スヘシ

明治二十一年二月二十二日

內務大臣伯爵山縣有朋

○內務省訓令第四號

府 縣 沖繩 除ク

警察費ノ內地方稅連帶支辨金支出方之儀ハ二十年年度以降總テ精算拂トナシ爾後決算ノ上殘金ヲ生セシキハ戻入ニ相立ヘシ

但會計整理期限後ニ於テハ精算拂ノ儘据置キ決算ノ上該殘金ハ直チニ現年度ノ第二部歲入トシテ國庫ヘ納付シ其旨當省ヘ報告スヘシ

明治二十一年一月二十五日

內務大臣伯爵山縣有朋

○海軍省訓令第二十四號

海軍一般

明治二十年六月訓令第六十七號別冊第二部歲入決算證明式中第一條第五條ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治二十一年二月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

第一條 歲入決算帳ハ該年度會計結了ニ隨ヒ會計主務官ニ於テ每款別ニ之ヲ調製シ會計局ニ送達スヘシ

第五條 會計局長ハ各會計主務官ヨリ送達セル決算帳ヲ受ケ検査完了ノ後之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

○海軍省訓令第二十五號

海軍一般

省令訓令其他諸例規中ノ會計検査部ハ會計局會計検査部長ハ會計局長ト心得ヘシ

明治二十一年二月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省訓令第二十六號

海軍一般

扶桑艦浪速艦高千穂艦金剛艦比叡艦迅鯨艦定員中左ノ人員ヲ增加ス

明治二十一年二月二十七日

海軍大臣伯爵西郷從道

機關士 水雷主機 一人

○遞信省訓令第二號

私設海路標識建設人ニ於テ其變更廢止停止及再設ニ關スル届書差出サ、ル向モ有之取締上不都合不抄候條自今右等ノ際ハ其日限ヲ定メ凡二箇月前ニ届出シメ候様取計フヘシ
但燒失若クハ破壞シタルトキハ其旨直ニ届出サシムヘシ
明治二十一年三月五日
遞信大臣子爵榎本武揚

北海道廳 沿海府縣

○海軍省訓令第二十七號

舊機關學校卒業ノ後少機關士候補生ヲ命セラレタル者ノ學術検査ハ其成績ト學校卒業試験ノ成績トヲ合算シタルモノヲ以テ學術検査ノ優劣ヲ定ム
明治二十一年三月九日
海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍一般

○海軍省訓令第二十八號

臨時醫務檢閱細則ヲ定ムル左ノ如シ
明治二十一年三月十五日
海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍一般

臨時醫務檢閱細則

第一條 臨時醫務檢閱ノ順序ハ検査官之ヲ定ム可シ

第二條 検査官ノ隨行員ハ軍醫監一名軍醫一名ヲ以テ之ニ充ルヲ例トス

第三條 検査官檢閱ヲ行フトキハ鎮守府ニ於テハ各部長其他各廳艦船營病院ニ於テハ該長立會ヲナス可シ但各長不得止事故アルトキハ次長副長若クハ該長ノ適當ト認定スル者ヲレテ之ニ代ラシムルコトヲ得

第四條 鎮守府艦隊軍醫部長ハ各管内檢閱中立會ヲナス可シ

第五條 醫務檢閱ハ軍醫官所在ノ艦船營廳及各病院ニ就キ左ノ事項ヲ検査ス

第一項 軍醫官服務通則ニ關スル事項

第二項 海軍病院通則ニ關スル事項

第三項 艦船營學校病院監獄ノ構造ニ關スル衛生上ノ實況

第四項 被服糧食ノ適否及其供給保管ノ實況

第五項 軍醫部士官以下ノ教育ノ方法

第六項 救急法教授ノ方法

第六條 検査官檢閱上須要ト認ムルトキハ前條項目外ノ事ヲ檢閱スルコトヲ得

○農商務省訓令第五號

警視廳 府縣 沖繩縣

各地方ニ於テ火入ト稱ヘ山野ノ枯草ヲ燃キ其火延燒シテ隣接官私林ニ災害ヲ及スコト少シトセス
因テ地方廳ハ左ノ標準ニ據リ從來ノ習慣ヲ酌量シ山野火入取締規則ヲ設クヘシ

明治二十一年三月十五日

農商務大臣伯爵黑田清隆

山野火入取締規則標準

第一條 山野ニ火入ヲナサント欲スル者アルトキハ地方廳ハ左ノ各項ヲ具シタル願書ニ認可ヲ受

ケシムヘシ

一 火入期日

一 箇所限地目段別及字番號

一 四至境界ヲ見ルヘキ實地略圖

第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防

火線ヲ設ケ且其森林原野所有者(官林ナルトキハ大林區署若クハ小林区署若クハ)及警察署(少ナクトモ火入期日五日以前ニ共旨ヲ報告セシムヘシ)

第三條 防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉並塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀溝等ノ設

ケヲナサシムヘシ

但道路窪谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス

第四條 日出前日没後及風勢穏ナラサルトキハ火入ニ着手セシムヘカラス

第五條 火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラス

第六條 火入認可ヲ受ケタル者ト雖モ郡區長、警察官、大小林区署員、大林區署派出所員、戶長、官林

巡邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ヘ延燒ノ虞アリト思量

スルトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

○海軍省訓令第二十九號

海軍 一般

海軍爲換順序ニ據リ海軍艦船經費取扱順序別冊ノ通定ム

但別冊ハ別ニ頒ツ(別冊略ス)

明治二十一年三月十六日

海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省訓令第三十號

海軍 一般

海軍若火夫教科機關書別冊ノ通定ム

但別冊ハ之ヲ要スル艦營等ヨリ請求ノ上臨時相渡ス可シ(別冊略ス)

明治二十一年三月十九日

海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省訓令第三十一號

海軍 一般

明治二十一年三月 訓令 海軍省第二十九號 第三十號 第三十一號

退職及退職恩給ノ願書ハ自今本人ノ年滿期限或ハ留任滿期ノ當日ヲ以テ進達候様取計フヘシ
明治二十一年三月十九日 海軍大臣伯爵西郷從道

○内務省訓令第五號

明治二十一年度第二部歳出神社費中招魂社費招魂社營繕費國幣社例祭幣帛料豫算左ノ通相定ム
明治二十一年三月二十一日 内務大臣伯爵山縣有朋

招魂社費

一金百六圓七拾五錢	北海道廳	一金三百九拾五圓五拾錢	京都府	一金貳百五圓五拾錢	長崎縣
一金八拾六圓貳拾五錢	新潟縣	一金拾九圓七拾五錢	群馬縣	一金五拾圓貳拾五錢	栃木縣
一金拾九圓貳拾五錢	三重縣	一金拾六圓七拾五錢	愛知縣	一金三拾圓	滋賀縣
一金貳拾三圓五拾錢	岐阜縣	一金五拾八圓	長野縣	一金百拾四圓七拾五錢	福島縣
一金貳拾貳圓五拾錢	岩手縣	一金貳拾六圓七拾五錢	青森縣	一金五拾四圓	山形縣
一金貳百貳拾貳圓	秋田縣	一金貳拾五圓七拾五錢	福井縣	一金三拾七圓	石川縣
貳拾九圓五拾錢	鳥取縣	一金貳拾三圓七拾五錢	岡山縣	一金四拾九圓五拾錢	廣島縣
一金四圓貳拾三圓七拾五錢	山口縣	一金三拾六圓貳拾五錢	高知縣	一金百三拾九圓七拾五錢	廣岡縣
一金三拾壹圓五拾錢	佐賀縣	一金五拾壹圓五拾錢	熊本縣	一金八拾壹圓貳拾五錢	宮崎縣
一金三百拾貳圓貳拾五錢	鹿児島縣				
招魂社營繕費					
一金百六拾貳圓五拾錢	北海道廳	一金百五拾六圓貳拾五錢	東京府	一金三百九拾三圓七拾五錢	京都府
一金六圓貳拾五錢	大阪府	一金拾八圓七拾五錢	神奈川縣	一金六圓貳拾五錢	兵庫縣
一金貳百三拾壹圓貳拾五錢	長崎縣	一金五百五拾六圓貳拾五錢	新潟縣	一金六圓貳拾五錢	埼玉縣
一金六拾貳圓五拾錢	群馬縣	一金六拾貳圓五拾錢	千葉縣	一金八拾七圓五拾錢	茨城縣
一金五百八拾壹圓貳拾五錢	栃木縣	一金貳拾五圓	三重縣	一金貳拾五圓	愛知縣

一金六拾貳圓五拾錢	滋賀縣	一金貳拾五圓	岐阜縣	一金三百七拾五圓	長野縣
一金六圓貳拾五錢	宮城縣	一金千八百七拾七圓五拾錢	福島縣	一金六拾貳圓五拾錢	岩手縣
一金百拾八圓七拾五錢	青森縣	一金三百五拾圓	山形縣	一金八百七拾五圓	秋田縣
一金五拾六圓貳拾五錢	福井縣	一金三拾壹圓貳拾五錢	石川縣	一金三拾七圓五拾錢	富山縣
一金貳拾五圓	鳥取縣	一金貳百圓	岡山縣	一金八拾七圓五拾錢	廣島縣
一金六百八拾七圓五拾錢	山口縣	一金貳拾五圓	高知縣	一金百七拾五圓	廣岡縣
一金七拾五圓	大分縣	一金八拾七圓五拾錢	佐賀縣	一金千六圓貳拾五錢	熊本縣
一金貳百三拾壹圓貳拾五錢	宮崎縣	一金五百八拾壹圓貳拾五錢	鹿児島縣		

國幣社例祭幣帛料

一金拾五圓	北海道廳	一金四拾圓	京都府	一金四拾圓	神奈川縣
一金貳百三拾五圓	兵庫縣	一金四拾圓	長崎縣	一金三拾五圓	新潟縣
一金貳拾圓	群馬縣	一金貳拾圓	千葉縣	一金四拾圓	茨城縣
一金四拾圓	栃木縣	一金貳拾圓	三重縣	一金三拾圓	愛知縣
一金三拾五圓	靜岡縣	一金貳拾圓	山梨縣	一金三拾五圓	岐阜縣
一金四拾圓	長野縣	一金四拾圓	宮城縣	一金六拾圓	福島縣
一金拾五圓	岩手縣	一金拾五圓	青森縣	一金五拾圓	山形縣
一金三拾圓	秋田縣	一金百八拾圓	福井縣	一金三拾五圓	石川縣
一金貳拾圓	富山縣	一金三拾五圓	鳥取縣	一金九拾圓	島根縣
一金六拾圓	岡山縣	一金三拾五圓	廣島縣	一金九拾圓	山口縣
一金四拾圓	和歌山縣	一金四拾圓	德島縣	一金六拾圓	愛媛縣
一金貳拾圓	高知縣	一金三拾五圓	福岡縣	一金貳拾圓	大分縣
一金貳拾圓	佐賀縣	一金貳拾圓	熊本縣	一金拾五圓	宮崎縣
一金三拾五圓	鹿児島縣				

○內務省訓令第六號

明治二十一年度第三部歲出豫算別冊ノ通相定ム

但別冊ハ別ニ頒ツ (別冊略ス)

明治二十一年三月二十一日

警視廳 府 縣
集治監 假留監

內務大臣 伯露山縣有朋

○大藏省訓令第九號

明治二十一年度內國稅徵收費取扱順序左ノ通之ヲ定ム

明治二十一年三月二十二日

大藏大臣 伯露松方正義

府 縣

明治二十一年度內國稅徵收費取扱順序

第一條 內國稅徵收費ノ整理ヲ分テ三部トス左ノ如シ

但沖繩縣經費ハ總テ第一部ニ屬ス

第一部 收稅部中本務ニ屬スル諸費

一 俸給及諸給

二 廳費

三 印紙鑑札取扱費

四 地租代米納費

五 旅費

第二部 收稅部中檢稅ニ屬スル諸費

一 俸給及諸給

二 廳費

三 管内旅費

第三部 土地檢査ニ屬スル諸費

一 俸給
但檢査人員ノ俸給ハ第一第二部費内ニテ支辨シ得サルカ爲テ配賦察請ノ分

二 雇人料
檢査用器具運送人足賃公用狀持夫賃

三 廳費
丈量器械筆墨料用紙蠟燭通信運搬費

四 管内旅費

第二條 收稅長ノ俸給旅費其他一般ノ死亡賜金、死傷手當、赴任並管外旅費、稅則違犯及租稅不納物件取扱費、訴訟入費、管内約束郵便稅其他廳中所要ノ諸費ハ總テ第一部費ノ支辨ニ屬ス但檢稅課員ノ俸給筆墨料ハ在廳ノ時ト雖モ第二部費ノ支辨ニ屬ス

第三條 第一條ニ掲グル區分ハ整理ノ爲メ特ニ設クルモノニツキ歲入歲出々納規則及歲出取扱順序中諸仕譯書請求書取消書報告書又ハ決算帳ノ調製ニ當リテハ總テ該區分ヲ要セス

第四條 第一部費 死亡賜金、地租代米納費、豫算年額ヲ定メ各府縣ヘ配賦スルモノトス

第五條 地租代米納費死亡賜金及ヒ第三部費中新荒地々目變換等臨時賦除租檢査費ハ要用ノ都度該費部ニ掲グル費用豫算金額明細書及支出月額仕譯書ヲ添ヘ其旨ヲ具シテ指揮ヲ受クヘシ但地租代米納費ヲ除クノ外至急ヲ要スル場合ニ限り指揮ヲ得サル以前ニ於テ他ノ支出承認月額内ヲ以テ先ツ其費用ヲ支出スルヲ得

第六條 前條ノ經費ヲ配賦スルトキハ該金支出月額ヲモ指定スヘキニツキ之レニ對シ月額仕譯書

誤謬土地檢査費ノ申請方ハ別ニ達スル所ニ依ル

明治二十一年三月 訓令 大藏省第九號

三

送付スルニ及ハス

第七條 各部ノ豫算配賦ヲ受クルトキハ部毎ノ事業ニ對シ人員配置ト經費充用ノ計畫書ヲ編製シ將來事業ノ伸縮又ハ經費科目ノ異動ニ關スル取締手續ヲ設ケテ之ヲ施行スヘシ
前項中第二部第三部ノ計畫書ハ之ヲ主税局ニ報告シ尙ホ土地検査ニツイテハ毎月運抄成績表ヲ製シ翌月二十日限り之ヲ報告スヘシ

第八條 配賦ノ豫算中各科目ノ金額彼此流用ヲ要スルトキハ左ノ區別ニ依ルヘシ

第一 各部ノ豫算一項中各目ノ流用ハ其過不足金額ニ就キ各事由ヲ詳悉シタル調書ヲ製シ承認ヲ請フヘシ

第二 前項同目ノ金額互ノ流用ハ適宜施行スルヲ得

但第三部費ヨリ他ニ流用ヲ要スルトキハ前項ニ倣ヒ承認ヲ請フヘシ

第三 總テ項ヲ異ニスル金額ノ流用ハ之レヲ許サス

但事實不得止事項ニ限り其過不足金額ニ就キ各事由ヲ詳悉シテ之レヲ具申スヘシ内國稅徵收費豫算總額内ノ都合ニ依リ特ニ其金額ヲ増減スルコトアルヘシ

第九條 各部中或ル事業ヲ指定シテ特ニ配賦シタル金額ノ殘餘ハ其事由ヲ具申シテ指揮ヲ得ルニアラサレハ他ノ費用ニ支出スルコトヲ得ス

第十條 第八條第二項ニヨリ流用セルモノアルトキハ其月分取纏メ報告書ヲ調製シテ翌月七日以内主税局ヘ送付スヘシ

第十一條 第八條第一項第三項ノ科目流用ハ翌年一月一日以降ニ於テ之レヲ請フコトヲ得ス但經費精算上ノ過不足又ハ著シキ事故アルトキハ此限ニアラス

第十二條 毎月所屬ノ經費ハ特別ノ事故アルモノ、外翌月十五日以内ニ精算支拂ヲ爲スヘシ

第十三條 第五條第一項第七條第二項第八條第一項及ヒ第十條ノ書式ハ主税局ヨリ送付ス(書式略ス)

○内務省訓令第七號

明治二十一年度第三部歳出府縣費科目別冊ノ通相定ム

但別冊ハ別ニ頒ツ (別冊略ス)

明治二十一年三月二十四日

府 縣

内務大臣伯爵山縣有朋

○大藏省訓令第十號

歳入歳出納規則第七十一條歳出報告書ノ儀ハ來ル四月以降國庫金出納所事務順序ニ據リ同所ヨリ送付スル支拂案内書差引表(案内書受領高ヲ以テ歳出報告書總高ニ照合ノ上之ヲ添付シ差出スヘシ)

明治二十一年三月二十四日

大藏大臣伯爵松方正義

北海道廳 府縣

○大藏省訓令第十一號
歳入歳出納規則ニ據リ發行スル歳入徵稅令書納額告知書若シクハ歳出支拂案内書等ニ目ノミヲ誤記シタル場合ニ於テハ來ル二十一年四月以降其訂正方ヲ金庫ニ請求スルニ不及但歳入歳出報告書ノ儀ハ右ノ場合ニ於テ從前ノ通り夫々訂正スル儀ト心得ヘシ

明治二十一年三月二十六日

大藏大臣伯爵松方正義

○農商務省訓令第六號

當省所管森林收入取扱順序別冊ノ通相定メ明治二十一年度ヨリ施行ス

但別冊ハ山林局ヨリ送付ス (別冊略ス)

明治二十一年三月二十七日

農商務大臣伯爵黑田清隆

府 縣 沖繩縣

○農商務省訓令第七號

當省所管森林費取扱順序別冊ノ通相定メ明治二十一年度ヨリ施行ス

府縣 大林區設置アル府
縣 檜及沖繩縣ヲ除ク

但別冊ハ山林局ヨリ送付ス (別冊略ス)

○農商務省訓令第八號

森林收入決算證明ニ關スル書類ハ當省ヲ經由會計検査院ヘ送付スヘシ

府縣 沖繩縣

明治二十一年三月二十七日

○農商務省訓令第九號

森林費決算證明ニ關スル書類ハ當省ヲ經由會計検査院ヘ送付スヘシ

府縣 大林區設置アル府
縣 檜及沖繩縣ヲ除ク

明治二十一年三月二十七日

○農商務省訓令第十號

森林收入既納金年度後ノ拂戻ハ明治十九年大藏省訓令第六十號及第六十一號ニ據リ同省所管經費ヨリ仕拂做出取扱順序第二十一號書式ニ據リ歳出報告書ヲ製シ翌月七日マテニ當省ヘ差出スヘシ

府縣 沖繩縣

明治二十一年三月二十七日

○農商務省訓令第十一號

明治十九年五月當省訓令第六號森林收入取扱順序明治二十年度限り廢止ス

府縣

明治二十一年三月二十七日

○農商務省訓令第十二號

明治十九年五月當省訓令第七號官林保護費取扱順序明治二十年度限り廢止ス

府縣 大林區設置アル府
縣 檜及沖繩縣ヲ除ク

明治二十一年三月二十七日

農商務大臣伯爵黑田清隆

○大藏省訓令第十二號

明治十九年十月當省第四十九號訓令附録書式二十一年度ヨリ別紙ノ通更正ス

北海道廳 府縣

但別紙ハ當省ヨリ別ニ頒ツ (別紙略ス)

明治二十一年三月二十八日

○大藏省訓令第十三號

明治十九年十二月當省訓令第五十九號歳入歳出計算記簿規程中左ノ通改正シ明治二十一年度ヨリ施行ス

大藏大臣伯爵松方正義
北海道廳 府縣

明治二十一年三月二十八日

一 摸本甲第一第一一部歳入第一一整理簿同甲第八第二一部歳入第一一整理簿摘要中記帳一日分項ノ員額

(第一一部歳入ハ)ヲ以テ記載スルモ妨ケナントス

一 摸本甲第三第一一部歳入徵稅額第一一整理簿同甲第四第二一整理簿中納期ノ區分アルモノハ毎納期ニ口坐ヲ設クルモノトス

一 摸本甲第十八歳出概算支出金整理簿中摘要ト借方金額トノ區別間ニ(備考)ノ一欄ヲ設ケ共支出金額ノ精算濟年月日等ヲ記入スルモノトス

一 摸本甲第五第一一部歳入納期別第一一整理簿同甲第六第二一整理簿同甲第七月割額整理簿同甲第十一第二一部歳入月割額整理簿ヲ廢止ス

○大藏省訓令第十四號

十九年七月當省訓令第三十一號末項ノ歳入歳出納規則第七十一條及同年十二月當省訓令第六十號但書中規則第七十一條トアルハ第七十三條ト改ム

北海道廳 府縣

但二十一年度ヨリ右ニ照準スヘキ儀ト相心得ヘシ

○大藏省訓令第十四號

十九年七月當省訓令第三十一號末項ノ歳入歳出納規則第七十一條及同年十二月當省訓令第六十號但書中規則第七十一條トアルハ第七十三條ト改ム

北海道廳 府縣

但二十一年度ヨリ右ニ照準スヘキ儀ト相心得ヘシ

明治二十一年三月二十九日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省訓令第十五號

歳入出豫算條規第八條ニ據リ差出ス可キ郡區ノ報告書ハ二十一年度以降其應ニ於テ取極置キ添付スルヲ要セス

北海道廳 府縣

明治二十一年四月四日

大藏大臣伯爵松方正義

○内閣訓令

各官廳

本年三月閣令第五號歳入歳出納規則第七十一條中ノ改正明治二十一年度ヨリ施行ストアルハ明治二十一年四月一日以後各官廳ヨリ送付スヘキ總テノ歳出報告書ヲ包含シタルモノトス

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

○農商務省訓令第十三號

府 縣 沖繩縣

森林收入ニ屬スル辨償金、訴訟入費、償却金、違約金、盜難品賠償金、返納金及懲罰金ハ其確定後三十日以内ニ徵收スヘシ

但事實止ヲ得サル事故アルトキハ會計年度内ニ於テ適宜徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

農商務大臣伯爵黒田清隆

明治二十一年四月七日

○大藏省訓令第十六號

府 縣

收税部職員自今左ノ書式ニ倣ヒ年々一月四月七月十月各一日ノ現員取調共月十日限り該地差立主税局へ報告スヘシ

明治二十一年四月十二日

大藏大臣伯爵松方正義

現員報告表凡例

一 擔當ノ區ニハ課係名ヲ列記シ係ヲ置カサルモノハ課名ノミヲ記入シ若シ各課ニ屬セス別ニ名